

令和4年度 教科目概要

(2022年度)

吉川福祉専門学校
介護福祉科

別表1 介護福祉科 教育課程

領域	教育内容	科 目	区 分	時間数	授業時間数	
					一年次	二年次
人間と社会	人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立	講義	30	30	
	人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーションⅠ	講義	30	30	
		人間関係とコミュニケーションⅡ-①(手話)	演習	30		30
		人間関係とコミュニケーションⅡ-②(点字)	演習	30		30
		チームマネジメント	講義	30		30
	社会の理解	社会の理解Ⅰ-①	講義	30	30	
		社会の理解Ⅰ-②	講義	30	30	
		社会の理解Ⅱ	講義	30		30
	人間と社会に関する選択科目	組織人間関係論	講義	30	30	
	小 計				270	150
介護	介護の基本	介護の基本Ⅰ	講義	60	60	
		介護の基本Ⅱ	講義	60	60	
		介護の基本Ⅲ(医療と介護)	講義	30	30	
		介護の基本Ⅳ(リハビリテーション)	講義	30	30	
	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術Ⅰ	演習	30	30	
		コミュニケーション技術Ⅱ	演習	30		30
	生活支援技術	生活支援技術Ⅰ-①(住居・被服・家庭生活)	演習	30	30	
		生活支援技術Ⅰ-②(住居・被服・栄養調理・家庭生活)	演習	60		60
		生活支援技術Ⅱ-①	演習	30	30	
		生活支援技術Ⅱ-②	演習	60	60	
		生活支援技術Ⅱ-③	演習	60		60
		生活支援技術Ⅲ	演習	60		60
		生活支援技術Ⅳ(アクティビティ・サービス)	演習	60		60
	介護過程	介護過程Ⅰ-①	演習	30	30	
		介護過程Ⅰ-②	演習	60	60	
		介護過程Ⅱ	演習	60		60
	介護総合演習	介護総合演習Ⅰ	演習	60	60	
		介護総合演習Ⅱ	演習	30		30
		介護総合演習Ⅲ(卒業研究)	演習	30		30
	介護実習	介護実習Ⅰ-①	実習	80	80	
		介護実習Ⅰ-②	実習	152	152	
		介護実習Ⅰ-③	実習	32		32
		介護実習Ⅱ	実習	192		192
小 計				1,326	712	614
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ	講義	60	60	
		こころとからだのしくみⅡ	講義	30		30
		こころとからだのしくみⅢ	講義	30		30
	発達と老化の理解	発達と老化の理解	演習	60	60	
	認知症の理解	認知症の理解	演習	60		60
	障害の理解	障害の理解	講義	60		60
小 計				300	120	180
医療的ケア	医療的ケア	医療的ケアⅠ	講義	68	68	
		医療的ケアⅡ	演習	60		60
	小 計				128	68
合 計				2,024	1,050	974
					2,024	

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
人間と社会	人間の尊厳と自立	講義	30 30	前期	後期	前期	後期	鯉沼聡美	○
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応力の基礎を養う学習とする。				《本教科で重要となるキーワード》 介護における尊厳の保持・自立支援 権利擁護 人権 自己決定 ICF ノーマライゼーション 倫理観 死生観					
《授業の概要》 人間の尊厳を福祉のもつ意義から考える。具体的には、生活場面の事例から高齢者や障害を有する人々の尊厳の保持と自立について、介護現場で起こる事例を通して基本となる考え方を学ぶ。個々人の権利としての人権を理解し、利用者の権利侵害の背景や権利擁護、自立のあり方について考える。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ①生活場面から自立に関する基本的な考え方を学び、基本的ニーズと生活支援の関連を理解する。②人権思想がどのような経緯で誕生したかを理解し、歴史的変遷を知る。③権利擁護の考え方を理解する。④介護場面において、尊厳の保持と自立支援がどのように行われているか理解する。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	「人間の尊厳と自立」の授業のねらいと概要を説明。 利用者主体について考える							尊厳を身近に感じる 利用者の生活を知る	
②	「介護福祉士と倫理」介護の専門性や介護の定義を、グループワークを通して知る							介護福祉士になった自分を想像してみる	
③	「人間の尊厳と人権・福祉理念」人間の尊厳の保持とは何か。 尊厳と自立をめぐる歴史の流れを学ぶ							世界の人権の歴史を調べる	
④	「尊厳と自立をめぐる社会の仕組み」 尊厳と自立がどのように守られているのかを学ぶ。							日本国憲法第25条・13条の予習	
⑤	「社会福祉領域での人権①」介護を必要とする人の権利とは何かを学ぶ 介護保険法・障害者総合支援法							教科書p16	
⑥	「社会福祉領域での人権②」より人間らしく生きることの権利を学ぶ							教科書p24	
⑦	「人間の尊厳と自立・人権」尊厳や人権にかかわった人の思想や言動を知る 映画視聴							教科書の見開き「尊厳や人権にかかわった人たち」	
⑧	「人権尊重と権利擁護」利用者の権利擁護とは何かを知る。 ハンセン病患者の事例を通して学ぶ							教科書p37	
⑨	「自立のあり方」自立と自己選択・自己決定、自律を学ぶ							教科書p52	
⑩	「介護を必要とする人々の自立と自立支援」 自立への意欲と動機づけと自立支援の考え方							教科書61	
⑪	「介護における自立支援の実際」 ICFの図から自立支援を考える							教科書p71	
⑫	終末期介護の倫理の予習として生死について考える。 動画視聴 レポート提出							「生きること」「死ぬこと」を考える 教科書p34	
⑬	介護現場で起こる事例を通して、終末期介護の倫理を考える 前期試験対策							提出したレポート内容を振り返る	
⑭	定期試験 学習した内容の振り返り							試験範囲の学習	
⑮	定期試験の解答説明 前期に学習した内容のまとめ							尊厳と自立を振り返る	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 過去問題やドリルを行う ①歴史や法制度を理解する ②自立のあり方を多面的に学ぶ ③生き方の尊重・尊厳を理解する	
	60%	20%	10%	なし	なし	10%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座1（第2版） 「人間の理解」中央法規出版					参考図書		完全図解「新しい介護」講談社 「介護福祉士国家試験過去問」中央法規 「介護福祉士国試ナビ」中央法規 他は講義の中で随時紹介する	
学生へのメッセージ	介護福祉士としての倫理観を身につけましょう。そこから介護を展開していきましょう。					履修上の注意		授業中はディスカッションなどにも積極的に参加する。教科書だけでなく、配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておく。※レポートには宿題含む	
実務経験と当該科目との関連	介護現場で培ってきた経験を活かし、介護場面における人間の尊厳と自立支援の知識及び技術を習得させる授業を行う。								

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
人間と社会	人間関係とコミュニケーションⅠ	講義	30 30	前期	後期	前期	後期	小林亜紀	-
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。				《本教科で重要となるキーワード》 自己覚知 他者理解 信頼関係 言語的・非言語的コミュニケーション 受容 共感 傾聴					
《授業の概要》 人間関係の形成と支援関係における人間関係の形成や、対人関係とコミュニケーションを学び、より良い介護が実践できることを学ぶ。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 ①介護を必要とする方や他職種協働で進めるチームにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力を養う。 ②介護の実践のためのわかりやすい説明や的確な記録・記述を行う能力を養う。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ①他者理解や情報の伝達に必要なコミュニケーション能力を理解する。 ②介護現場における倫理的課題について対応できるための基礎を身につける。③多職種協働や信頼関係の下、コミュニケーションが取れるようにする。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	「人間関係とコミュニケーション」の授業のねらいと概要の説明 人間らしさ								
②	自分と他者の理解をジョハリの窓から学ぶ								
③	「心理学からみた人間関係①」 発達心理学からみた人間関係								
④	「心理学からみた人間関係①」「心理学からみた人間関係②」 社会心理学からみた人間関係								
⑤	「対人関係におけるコミュニケーション①」 コミュニケーションの概念 基本構造								
⑥	「対人関係におけるコミュニケーション②」 コミュニケーションの手段								
⑦	「対人援助関係とコミュニケーション①」								
⑧	「対人援助関係とコミュニケーション②」								
⑨	「対人援助関係とコミュニケーション③」 援助関係形成の7原則・バイスティックの7原則から学ぶ								
⑩	「対人援助関係とコミュニケーション④」 演習 傾聴について考える								
⑪	「組織におけるコミュニケーション①」 組織の条件とコミュニケーションの特徴								
⑫	「組織におけるコミュニケーション②」 組織において求められるコミュニケーション								
⑬	「組織におけるコミュニケーション③」 演習 プレーンストーミングをやってみる。								
⑭	前期試験 学習した内容の振り返り							試験範囲の学習	
⑮	「組織の目標達成のためのチームマネジメント②」								
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	
	60%	評価に加えず	20%	評価に加えず	10%	10%	なし		過去問題・ドリルを行う 人間関係にかんする言語を覚える
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座1（第2版） 「人間の理解」中央法規出版					参考図書		完全図解「新しい介護」講談社 「介護福祉士国家試験過去問」中央法規 「介護福祉士国試ナビ」中央法規	
学生へのメッセージ	自分を知ることからコミュニケーションを始めましょう。					履修上の注意		授業中はディスカッションなどにも積極的に参加する。教科書だけではなく、配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておく。※レポートには宿題含む	
実務経験と当該科目との関連									

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
人間と社会	人間関係とコミュニケーションⅡ-①(手話)	演習	30 30	前期	後期	前期	後期	直嶋美恵子	-
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。				《本教科で重要となるキーワード》 ・聴覚障害者の生活 ・聴覚障害者の情報保障 ・手話という言葉と日本語					
《授業の概要》 障害をもつ人たちと同じ社会に生き、生活するという、すべての人が社会参加でき平等に情報を得ることについて考える。そのうえで、聴覚障害とはどんな障害か、聴覚障害者の生活とはどのようなものかを理解しつつ、コミュニケーションの手段を学び、日常生活に利用できる手話表現を身につける。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 介護実践のために必要な人間の理解や他者への情報の伝達、必要なコミュニケーション能力を補うための学習とする。									
《到達目標（具体的行動目標）》 聴覚障害、聴覚障害者への理解と認識を深めるとともに、簡単な表現が理解でき、また表現できる技術の習得を目指す。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	オリエンテーション。手話を学ぶにあたって、聴覚障害、聴覚障害者の生活の理解をする。簡単な挨拶を手話で表現する。							聞こえないとはどういうことか考えてくる。	
②	挨拶と自分の名前の手話表現を学び、実際に会話する。							挨拶の手話の復習をする。	
③	家族の手話表現を学び、会話する。							挨拶と名前の手話を復習する。	
④	数字の表現方法について学び、実際に会話する。							日常生活で使用されている数字を考える。	
⑤	趣味・スポーツなどの表現							人が興味を持つ趣味やスポーツを考える。	
⑥	時間の表現							生活の中の時間の表現を考える。	
⑦	職業の表現							興味のある職業や将来就きたい職業について考える。	
⑧	これまで学んだ手話で自己紹介の発表							自己紹介の内容と手話を練習する。	
⑨	50音の練習							手話で行った自己紹介の内容を復習する。	
⑩	食べ物に関する表現							50音を復習し覚える。	
⑪	生活に関する表現							手話の表現方法について復習する。	
⑫	いろいろな感情の表現							感情は表情も含めて表現するので、表情の練習をする。	
⑬	これまでに学んだ手話で簡単な日常会話の発表							日常会話について練習する。	
⑭	確認テスト							これまで学習した内容の復習をしておく。	
⑮	手話を用いて、聴覚障害者に福祉について話し合いをする。							手話という言葉、聴覚障害者の生活について考える。	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	
	50%	評価に加えず	20%	評価に加えず	20%	10%	なし		
使用教科書	早引き 手話ハンドブックー知りたいことがよくわかる ナツメ社					参考図書			
学生へのメッセージ	言葉の一つである手話を覚えて、実際に話せるようになりましょう。					履修上の注意		①積極的に参加すること。 ②復習をしてくること。	
実務経験と当該科目との関連									

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
人間と社会	人間関係とコミュニケーションⅡ-②(点字)	演習	30 30	前期	後期	前期	後期	高梨憲司	-
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。				《本教科で重要となるキーワード》 ・生活ニーズと合理的配慮 ・心理への寄り添い ・情報支援と情報提供					
《授業の概要》 視覚障害者の現況と障害特性、生活ニーズと心理、および視覚障害者が利用可能なサービスについて解説し、介護の専門職としてのコミュニケーション技術（点字など）を習得する。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 視覚障害者を介護する上で必要なコミュニケーション技術の一つとして、点字の読書きを修得し、信頼関係の構築とサービス向上に資する。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ・障害受容(先天性と中途障害、弱視者、家族)の過程に寄り添い、適切な相談対応ができる。 ・障害特性に配慮した適切な生活の介護ができる。 ・視力や見え方に配慮した適切な情報支援ができる。・点字による簡単な資料の作成や点字の解読ができるようになる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	オリエンテーション・DVD「バリアフリー社会を目指して(見えない世界、聞こえない世界)」を見て、学習のねらいと到達目標をイメージできる。							DVDを見て、障害種別によって合理的配慮が異なることを考える。	
②	視覚障害の理解Ⅰ：視覚障害者の現況と障害特性・生活ニーズを理解し、障害特性に対する合理的配慮ができる。							講義を振り返り、日常の様々な生活場面においてどのような課題があり、どう配慮したらよいかを考える。	
③	視覚障害の理解Ⅱ：視覚障害者とその家族の心理を理解し、具体的な相談に対応できる。							講義を振り返り、障害者本人とその家族の思いを自分自身に置き換え、望ましい相談対応について考える。	
④	視覚障害の理解Ⅲ：失明原因となる主な眼疾患、弱視者の見え方・見えにくさについて理解し、具体的な配慮ができる。							自分自身で様々な視野障害の状態を体験して、見えにくさと配慮を考える。	
⑤	視覚障害の理解Ⅳ：視覚障害に関わる制度について学び、障害状態に応じて利用できるサービスを具体的に説明できる。							補足プリント5頁～6頁の「視覚障害者が利用可能な福祉サービス」を復習する。	
⑥	点字の基礎Ⅰ：点字の歴史と概要、点字器の使い方と読み方を理解し、点字の意義と50音の構成を説明できる。							点字の構成を復習し、テキストの「点字一覧表」を暗記する。	
⑦	点字の基礎Ⅱ：語の書き表し方その1(仮名遣い)を学び、簡単な単語を読み書きできる。							授業を振り返り、実際に簡単な単語を書いて復習する。	
⑧	点字の基礎Ⅲ：語の書き表し方その1(仮名遣い)から点字特有の表記を理解し、簡単な文章を読み書きできる。							授業で学んだ以外の演習問題を活用して、点字特有の表記を復習する。	
⑨	点字の基礎Ⅳ：語の書き表し方その1(数字)を学び、数字の入った文章の読み書きができる。							授業で学んだ以外の演習問題を復習する。	
⑩	点字の基礎Ⅴ：語の書き表し方その1(アルファベット)を学び、アルファベットの入った文章の読み書きができる。							授業で学んだ以外の演習問題を復習する。	
⑪	点字の基礎Ⅵ：語の書き表し方その2(文節分かち書き)を学び、点訳に必要な複合語や固有名詞の分かち書きができる。							授業で学んだ以外の演習問題を活用して、文章の分かち書きの部分に斜線を入れて復習する。	
⑫	書き方の実際Ⅰ：本文と見出しの書き方、案内文・手紙の書き方を学び、実際に手紙や名刺を作成できる。							実際にクラスメイト宛ての手紙を書いて復習する。	
⑬	書き方の実際Ⅱ：テキストの練習問題を用いて一般文章の点訳ができる。							同窓会の案内状などを作成する。	
⑭	定期試験：これまでの学習のポイント整理と評価のための定期試験							点字の書き方全般の復習する。	
⑮	学習のまとめ：定期試験の公表に併せて、視覚障害者に対する移動支援と情報提供の方法を学び、日常の場面や就労先で視覚障害者への適切な援助ができるようになる。							DVD「初めてのガイド」を見て、街中での援助を実践する。	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	
	50%	評価に加えず	20%	評価に加えず	20%	10%	なし		
使用教科書	「初めての点訳」第二版 特定非営利活動法人全国視覚障害者情報提供施設協会発行				参考図書				
学生へのメッセージ	利用者・家族に寄り添い、実際に障害者支援の現場で活用できる知識と援助技術を身に付けることに努めてほしい。				履修上の注意 視覚障害者の生活ニーズと心理については多くの実例を挙げて解説する。心に残る重要な点は記録し、課題解決に向けた問題意識をもって授業に参加すること。				
実務経験と当該科目との関連									

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
人間と社会	チームマネジメント	講義	30 30	前期	後期	前期	後期	池上千恵美	○
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う。				《本教科で重要となるキーワード》 チームマネジメント チームワーク リーダーシップ フォロアシップ					
《授業の概要》 人材管理、リーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基本を理解する学習とする。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 チームで介護をするためのマネジメントに必要な「組織の運営と管理」「人材の育成や活用」、それらに必要な「リーダーシップとフォロアシップ」、チームで働くためのコミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な力を身につける。									
《到達目標（具体的行動目標）》 1. 介護サービスの特性と求められるマネジメントが理解できる。 2. 組織と運営管理が理解できる。 3. チーム運営の基本が理解できる。 4. 人材の育成と管理が理解できる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	介護実践におけるチームマネジメントの意義 ヒューマンサービスとしての介護サービス							教科書p178～p186	
②	介護実践におけるチームマネジメントの意義 介護現場で求められるチームマネジメント							教科書p187～p192	
③	介護実践におけるチームマネジメントの意義 介護実践におけるチームマネジメントの取り組み							教科書p192～p200	
④	ケアを展開するためのチームマネジメント ケアを展開するために必要なチームとその取り組み							教科書p203～p206	
⑤	ケアを展開するためのチームマネジメント チームでケアを展開するためのマネジメント・チームの力を最大化するためのマネジメント							教科書p206～p218	
⑥	ケアを展開するためのチームマネジメント チーム課題作成							教科書p203～p218	
⑦	ケアを展開するためのチームマネジメント チーム課題発表							教科書p203～p218	
⑧	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント 介護福祉職としてのキャリアデザイン 外部講師の講話から介護福祉士のキャリアを知る。							教科書p227～p231	
⑨	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント 介護福祉職とキャリアに求められる実践力							教科書p220～p227	
⑩	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント 介護福祉職のキャリア支援							教科書p232～p242	
⑪	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント 自己研鑽に必要な姿勢							教科書p242～p249	
⑫	組織の目標達成のためのチームマネジメント 介護サービスを支える組織の構造・機能と役割							教科書p252～p265	
⑬	組織の目標達成のためのチームマネジメント 介護サービスを支える組織の管理							教科書p265～p273	
⑭	後期試験								
⑮	後期試験解説 これまでの学習のまとめ							後期試験をアセスメントする。	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	課題提出	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	
	60%	10%	なし	10%	10%	10%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座1 「人間の理解」中央法規出版					参考図書	授業の中で随時紹介する。		
学生へのメッセージ	マネジメントの知識は介護実践にかかわる 様々な問題解決と、解決に向けた考え方を得るために役立ちます。					履修上の注意	チームマネジメントに関する専門用語を習得する。		
実務経験と当該科目との関連	介護職員（介護福祉士）としての勤務経験を生かし、チームで働くためのコミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な力を身につけることができる授業を行う。								

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
人間と社会	社会の理解Ⅰ-①	講義	30 30	前期 ●	後期	前期	後期	船澤修一	-
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する。				《本教科で重要となるキーワード》 「社会生活」「家族と家庭」 「ライフスタイル」「地域共生社会」 「地域包括ケア」「社会保障」 「介護保険制度」「障害者総合支援制度」 「個人の権利」「貧困対策」					
《授業の概要》 社会の理解では、生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。その上で、地域社会における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する諸制度にどのようなものがあるかを具体的に学ぶ。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解する学習である。 地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識、および介護実践に必要な社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を習得する。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ①人は社会的な存在であることを理解し、人を様々な視点でとらえ、課題と活用できる諸制度などと関連付けることができる。 ②個人や家族で行われてきた「支援」を「社会」で行うようになってきた理由を理解し説明できる。 ③社会保障制度の基本的な知識を習得し、必要な知識を必要な時に活用することができる。 ④介護保険制度をはじめとする人々の生活を支える制度の創設の背景から改革の歴史を理解し、現在の仕組みを説明できる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	授業説明（授業の概要、進め方、評価基準等） 社会と生活のしくみ							テキスト第1章第1節通読	
②	生活の基本機能 家庭機能の特徴							同第1節	
③	ライフスタイルの変化 生活と働き方の変化 少子高齢化と健康寿命							同第2節	
④	家族の機能と役割 家族の概念・構造・形態 家族の機能と変化							同第3節	
⑤	社会・組織の機能と役割 社会・組織の概念 グループ支援、組織化、エンパワメント							同第4節	
⑥	地域・地域社会 地域・地域社会の概念 産業化・都市化、過疎化							同第5節	
⑦	地域・地域社会 自助・互助・共助・公助							同第5節	
⑧	地域社会における生活支援 地域の集団、組織による生活支援							同第6節	
⑨	地域共生社会の実現に向けた制度や施策 地域福祉の理念 地域福祉の歴史的展開 地域福祉の充実							第2章第1節	
⑩	地域共生社会の実現に向けた制度や施策 演習2-1 フィールドワーク							同第2節	
⑪	地域共生社会の実現に向けた制度や施策 演習2-2 ボランティア							同第2節	
⑫	地域共生社会の実現に向けた制度や施策 災害と地域福祉							同第1節	
⑬	地域包括ケア 地域包括ケアの理念 地域包括ケアシステム							同第3節	
⑭	定期試験								
⑮	試験解説								
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 小テスト、練習問題を実施します。 国家試験受験ワークブックも復習に活用しましょう。	
	70%	10%	なし	なし	10%	10%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座2（第2版） 「社会の理解」中央法規出版					参考図書		社会福祉小六法 介護福祉士国家試験受験ワークブック上 随時授業内で参考図書の紹介をします。	
学生へのメッセージ	苦手意識を持たないようにしましょう。日頃からニュースや新聞記事に関心を持ち、自分の生活に結び付けていくと身近に感じられます。					履修上の注意		授業の進度により、授業内容が前後する場合があります。 わからない言葉は、そのままにしないようにしましょう。 復習が大切です。 配布したプリントはファイルするなど整理しましょう。	
実務経験と当該科目との関連									

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
人間と社会	社会の理解Ⅰ-②	講義	30 30	前期	後期	前期	後期	船澤修一	-
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する。								《本教科で重要となるキーワード》 「社会生活」「家族と家庭」 「ライフスタイル」「地域共生社会」 「地域包括ケア」「社会保障」 「介護保険制度」「障害者総合支援制度」 「個人の権利」「貧困対策」	
《授業の概要》 社会の理解では、生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。その上で、地域社会における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する諸制度にどのようなものがあるかを具体的に学ぶ。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解する学習である。 地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識、および介護実践に必要な社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を習得する。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ①人は社会的な存在であることを理解し、人を様々な視点でとらえ、課題と活用できる諸制度などと関連付けることができる。 ②個人や家族で行われてきた「支援」を「社会」で行うようになってきた理由を理解し説明できる。 ③社会保障制度の基礎的な知識を習得し、必要な知識を必要な時に活用することができる。 ④介護保険制度をはじめとする人々の生活を支える制度の創設の背景から改革の歴史を理解し、現在の仕組みを説明できる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	社会保障制度	基本的な考え方	社会保障の意義と役割	目的と機能				テキスト第3章第1節通読	
②	社会保障制度	日本の社会保障制度の発達							同第2節
③	社会保障制度	日本の社会保障制度のしくみ①	社会保障のしくみ				同第3節		
④	社会保障制度	日本の社会保障制度のしくみ②	年金保険	医療保険				同第3節	
⑤	社会保障制度	日本の社会保障制度のしくみ③	雇用保険	労働災害補償保険				同第3節	
⑥	社会保障制度	現代社会と社会保障制度	少子高齢化	持続可能な社会保障制度				同第4節	
⑦	高齢者保健福祉の動向							第4章第1節	
⑧	高齢者保健福祉に関連する法体系	高齢対策基本法	老人福祉法	高齢者の医療の確保に関する法律				同第2節	
⑨	介護保険制度	介護保険制度創設の背景と目的							同第3節
⑩	介護保険制度	介護保険制度のしくみの基本的理解							同第3節
⑪	介護保険制度	介護保険制における組織・団体の役割							同第3節
⑫	介護保険制度	介護保険制度における介護支援専門員の役割							同第3節
⑬	介護保険制度	介護保険制度の動向							同第3節
⑭	定期試験								
⑮	試験解説								
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 小テスト、練習問題を実施します。 国家試験受験ワークブックも復習に活用しましょう。	
	70%	10%	なし	なし	10%	10%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座2（第2版） 「社会の理解」中央法規出版				参考図書	社会福祉小六法 介護福祉士国家試験受験ワークブック上 随時授業内で参考図書の紹介をします。			
学生へのメッセージ	苦手意識を持たないようにしましょう。日頃からニュースや新聞記事に関心を持ち、自分の生活に結び付けていくと身近に感じられます。				履修上の注意	授業の進度により、授業内容が前後する場合があります。 わからない言葉は、そのままにしないでください。 復習が大切です。 配布したプリントはファイルするなど整理しましょう。			
実務経験と当該科目との関連									

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
人間と社会	社会の理解Ⅱ	講義	30 30	前期	後期	前期	後期	船澤修一	-
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する。								《本教科で重要となるキーワード》 「社会生活」「家族と家庭」 「ライフスタイル」「地域共生社会」 「地域包括ケア」「社会保障」 「介護保険制度」「障害者総合支援制度」 「個人の権利」「貧困対策」	
《授業の概要》 社会の理解では、生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。その上で、地域社会における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する諸制度にどのようなものがあるかを具体的に学ぶ。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解する学習である。 地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識、および介護実践に必要な社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を習得する。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ①人は社会的な存在であることを理解し、人を様々な視点でとらえ、課題と活用できる諸制度などと関連付けることができる。 ②個人や家族で行われてきた「支援」を「社会」で行うようになってきた理由を理解し説明できる。 ③社会保障制度の基礎的な知識を習得し、必要な知識を必要な時に活用することができる。 ④介護保険制度をはじめとする人々の生活を支える制度の創設の背景から改革の歴史を理解し、現在の仕組みを説明できる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	社会保障制度	基本的な考え方	意義	役割	目的	機能		第3章第1節通読	
②		日本の社会保障制度の発達						同第2節	
③		日本の社会保障制度の実施体制	しくみ					同第3節	
④		年金	医療	介護保険				同第3節	
⑤		雇用保険	労働災害補償保険	社会扶助（社会福祉）				同第3節	
⑥		現代社会と社会保障制度	少子高齢化	社会保障改革（持続可能）				同第4節	
⑦		高齢者保健福祉の動向	法体系					第4章第1節 第2節	
⑧		介護保険制度	創設の背景と目的	しくみの基本的理解				同第3節	
⑨		介護保険制度	組織・団体の役割	介護支援専門員の役割				同第3節	
⑩		介護保険制度	制度の動向					同第3節	
⑪		障害者総合支援制度	障害保健福祉の動向と法体系					第5章第1節第2節	
⑫		障害者総合支援制度	制度の概要					同第3節	
⑬		介護実践に関連する諸制度						第6章	
⑭		定期試験							
⑮		定期試験解説							
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 小テスト、練習問題を実施します。 国家試験受験ワークブックも復習に活用しましょう。	
	70%	10%	なし	なし	10%	10%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座2 「社会の理解」中央法規出版					参考図書	社会福祉小六法 介護福祉士国家試験受験ワークブック上 随時授業内で参考図書の紹介をします。		
学生へのメッセージ	苦手意識を持たないようにしましょう。日頃からニュースや新聞記事に関心を持ち、自分の生活に結び付けていくと身近に感じられます。					履修上の注意	授業の進度により、授業内容が前後する場合があります。 わからない言葉は、そのままにしないでください。 復習が大切です。 配布したプリントはファイルするなど整理しましょう。		
実務経験と当該科目との関連									

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
人間と社会	組織人間関係論	講義	30 30	前期	後期	前期	後期	久田晴實	-
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重しながら共生する社会へ理解や、国際的な視野を養う学習とする。								《本教科で重要となるキーワード》 人との交流 組織の運営 目標の達成 礼儀 ふるまい 遊ビリテーション チーム 企画 連携 協力 伝達 記録	
《授業の概要》 1 様々な人々と相互に尊重しあいながら人間関係を作る考え方、スキルやツールを学ぶ。 2 人間関係構築場面を実際に演習やロールプレイングで体験し技量を高める。 3 人間関係の調整や人材育成法をチームで企画する文化祭イベントの場面で学ぶ。 4 「多職種連携・チームケア・回想法・遊びりテーション」等を意識したイベントを企画する。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 1 様々な価値観を背景とする人々と相互に尊重しあいながら人間関係を作る。 2 組織体の在り方や対人関係の重要性を学ぶ。									
《到達目標（具体的行動目標）》 1 様々な価値観を尊重しながら、より良い人間関係を作るためのさまざまな考え方や手立てを知る。 2 より良い人間関係を作るための素材やツールを知り、実際に作成し活用する。 3 リーダーとして組織を協同させ、人材を育成するための手立てを考える。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	人間関係構築の基本①「挨拶の基本 初対面のあいさつ」 グループワーク①							ファイル（授業開始時に配布）次回から必ず持参小テスト範囲は事前に予告します。しっかり準備すること。以下同じ	
②	人間関係構築の基本②「挨拶の基本 立ち方と礼 上座と下座」 グループワーク② 小テスト①							①時間目と同じ	
③	人間関係構築の基本③「お礼の手紙 はがきの基本 お礼状作成」 小テスト②							①時間目と同じ 油性ペン（細身）等 郵送あて先情報	
④	人間関係構築の基本⑤「お礼の手紙 封書の基本 お礼状作成②」小テスト③							①時間目と同じ 油性ペン（細身）等 郵送あて先情報	
⑤	遊ビリテーションの理解 グループ作り 小テスト④							①時間目と同じ	
⑥	組織作りと円滑な行事運営① 「組織立ち上げとミッション設定」小テスト⑤							①時間目と同じ	
⑦	組織作りと円滑な行事運営② 「具体的な企画作りと準備」小テスト⑥							①時間目と同じ 企画のための物品	
⑧	組織作りと円滑な行事運営③ 「準備継続とシュミレーション」 小テスト⑦							①時間目と同じ 企画のための物品	
⑨	行事の実施（文化祭における活動）							予定に沿ってしっかり取り組む	
⑩	組織作りと円滑な行事運営④「振り返りと評価 KJ法で」 小テスト⑧ 介護川柳①							①時間目と同じ	
⑪	情報の伝達のために 「電話のかけ方」 グループワーク⑤ 小テスト⑨ 介護川柳②							①時間目と同じ	
⑫	情報の伝達のために 「正確で伝わる記録」グループワーク⑥ 小テスト⑩							①時間目と同じ、介護川柳提出	
⑬	考査							他教科の考査より先に実施します	
⑭	行事の実施（文化祭における活動）							予定に沿ってしっかり取り組む	
⑮	授業の振り返り 重要事項の再確認 介護川柳③								
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 小テストで勉強の習慣をつけてください。小テストの内容は事前に予告します。	
	50%	20%	なし	15%	10%	5%	無し		
使用教科書	使用教科書はありません。授業配布のプリントを使います。必ずファイルしておいてください。					参考図書	日本人礼儀作法読本（マガジンハウス）粋な日本人の心得帳（柘出版）ビジネスマナーの基本（新星出版）新訂総合国語便覧（第一学習社）		
学生へのメッセージ	実施した小テストの一部はは考査でも出題します。重要語句はしっかりと覚えましょう。					履修上の注意	定期考査は資料の持ち込みできません。小テスト範囲は事前に予告します。しっかり準備すること。課題は必ず提出してください。「介護川柳」への応募してもらいます。		
実務経験と当該科目との関連									

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	介護の基本Ⅰ	講義	30 60	前期	後期	前期	後期	大澤町子	○
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。							《本教科で重要となるキーワード》 介護福祉の基本理念 「尊厳の保持と自立支援」		
《授業の概要》 介護の成り立ちや概念の変遷について説明を行い、介護福祉の基本理念を通して「尊厳の保持、自立支援」について具体的に理解できるように、説明する。介護福祉士の活動の場と役割、「社会福祉士及び介護福祉士法」について説明し、介護福祉士養成カリキュラムの変遷についても説明する。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 「老人福祉法が成立した社会的背景を理解できて、制定後の介護に関連する施策を理解する。介護福祉の基本となる理念を理解する。尊厳を支える介護に関わるノーマライゼーション、QOLなどの考え方、自立を支える介護に関わる自己決定や利用者主体について理解する。介護福祉士の活動の場と役割、「社会福祉士及び介護福祉士法」について理解する。介護福祉士養成カリキュラムの変遷を理解する。									
《到達目標（具体的行動目標）》 老人福祉法が成立した背景を理解して、制定後の介護に関連する施策を理解出来て、詳しく説明することが出来る。介護福祉の理念である尊厳を支える介護に関わるノーマライゼーション、QOL、自立を支える介護に関する自己決定や利用者主体についてよく理解し説明出来る。介護福祉士の活動の場と役割、「社会福祉士及び介護福祉士法」について理解出来て、詳しく説明することが出来る。介護福祉を取り巻く状況として、介護需要、家族機能、地域社会の変化や介護ニーズの複雑化と多様化、介護福祉職の多様化について理解出来る。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	オリエンテーション・授業概要の説明、評価内容について。書類作成。自己紹介							書類作成用紙（準備） P2～P13を通読（予習）	
②	介護福祉を取り巻く状況、介護の成り立ち 介護需要の変化、家族機能の変化、地域社会の変化、介護ニーズの複雑化と多様化							演習1-1 P13～P20を通読（予習）	
③	介護福祉職の多様化 介護人材を取り巻く状況、介護福祉職の変化							P21～P30を通読（予習） 小テスト用紙（準備）	
④	介護福祉の歴史 老人福祉法の制定にいたるまでの社会福祉政策（小テスト実施）							P31～P37を通読（予習） DVD（準備）	
⑤	1970年代から1980年代（DVD視聴）							P38～P42を通読（予習） レポート作成用紙（準備）	
⑥	1990年代（DVD視聴） レポート作成提出 高齢化率の進展について～介護福祉教育課程の見直し							P42～P52を通読（予習） 小テスト用紙（準備）	
⑦	2000年以降 介護保険法について～ 介護福祉士の定義規定の変遷（小テスト実施）							P53～P63を通読（予習）	
⑧	介護福祉の基本理念 介護福祉の理念とは、尊厳を支える介護、自立を支える介護							P68～P76を通読（予習）	
⑨	介護福祉士の役割と機能 社会福祉士及び介護福祉士法、社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定							P77～P92を通読（予習）	
⑩	介護福祉士の活動の場と役割 地域包括ケアシステム、介護予防、医療的ケア、人生の最終段階の支援、災害時の支援							レポート作成用紙（準備） P94～P106を通読（予習）	
⑪	介護福祉士に求められる役割とその養成 レポート作成提出							P107～P115を通読（予習）	
⑫	介護福祉士を支える団体								
⑬	前期総復習（重要事項の確認）							P2～P115試験範囲	
⑭	定期試験実施							前期試験	
⑮	試験答案返し、解説・後期に向けて							解答・解説のレジュメ	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	介護福祉の基本理念、社会福祉士及び介護福祉士法の理解、
	60%	5.0%	5.0%	評価しない	評価しない	30%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座3（第2版） 「介護の基本Ⅰ」中央法規出版					参考図書	介護福祉士国試ナビ		
学生へのメッセージ	豊かな知識と確かな技術、クールヘッドと熱いハート、笑顔を忘れずに利用者の生きる意欲を引き出せるような介護職を目指しましょう					履修上の注意			

実務経験と当該科目との関連 介護職員（介護福祉士）及び介護支援専門員としての勤務経験を生かし、老人福祉法が成立した背景を理解して、制定後の介護に関連する施策を理解出来て、説明することが出来る。介護福祉の理念である尊厳を支える介護に関わるノーマライゼーション、QOL、自立を支える介護に関する自己決定や利用者主体についてよく理解し説明出来る。介護福祉士の活動の場と役割、「社会福祉士及び介護福祉士法」について理解出来て、詳しく説明することが出来る授業を行う。

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	介護の基本Ⅰ	講義	30 60	前期	後期	前期	後期	大澤町子	○
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。							《本教科で重要となるキーワード》 介護福祉士の倫理 ICFの視点に基づくアセスメント		
《授業の概要》 「介護福祉士の倫理」では、介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を具体的に説明することが出来る。「自立に向けた介護福祉のあり方」では、ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から、リハビリテーション等を理解させる。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 介護にたずさわる人がもつ職業倫理と、普遍的な倫理判断の視点を学び、介護の場面でどうにかせるかを考えることが出来る。日本介護福祉士の倫理綱領と行動規範を例に、介護福祉の専門性と倫理を理解する。自立支援の具体的な考え方や利用者の意思決定を支える方法について、自立支援におけるエンパワメントとICFの意義について理解する。ICFにおける生活機能と各因子との相互作用について理解する。ICFやストレスの視点を介護の実践に応用する視点をもつ。自立支援とリハビリテーションのなかでの介護福祉士の役割について理解する事ができる。									
《到達目標（具体的行動目標）》 職業倫理と倫理判断の視点を学び、さまざまな介護の場面でどうにかせるかを理解出来て、説明することが出来る。具体的に日本介護福祉士の倫理綱領や行動規範を例に、介護福祉の専門性と倫理を理解し説明することが出来る。自立支援の具体的な考え方や利用者の意思決定を支える方法についてエンパワメントとICFの意義についても理解でき説明できる。ICFにおける生活機能と各因子との相互作用について理解でき詳しく具体的に説明することが出来る。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	介護福祉士の倫理 介護実践における倫理、普遍的生命倫理原則							P118～P127通読	
②	高齢者虐待と生命倫理（介護の倫理）～認知症ケアでの場面							P127～P135通読	
③	「実習生が見た介護施設の実際」における倫理的判断が必要な介護福祉士の対応							レポート作成提出	
④	日本介護福祉士の倫理綱領							P136～P148通読	
⑤	自立に向けた介護、介護福祉における自立支援 自立支援の考え方、利用者理解の視点、意思決定支援、							P152～P160通読	
⑥	生活意欲と活動、就労支援、自立と生活支援							P160～P171通読	
⑦	ICFの考え方。介護におけるICFのとらえ方、							P172～P179通読	
⑧	自立支援とリハビリテーション リハビリテーションとは、リハビリテーションの実際、領域、主な専門職							P180～P191通読	
⑨	リハビリテーションにおける介護福祉士の役割、							P191～P197通読	
⑩	自立支援と介護予防 介護予防の概要、介護予防の種類と展開、高齢者の身体特性と介護予防							P198～P206通読	
⑪	自立支援と介護予防 介護予防の実際、DVD視聴							P207～P189通読	
⑫	介護予防における介護福祉士の役割、DVD視聴（続）、演習4-5							P213～215通読 レポート作成提出	
⑬	後期総復習（重要事項の確認）							P118～P215通読	
⑭	定期試験実施							後期試験	
⑮	試験答案返し、解説、1年の振り返り							解答・解説のレジュメ	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 日本介護福祉士会倫理綱領とICFについて、地域包括ケアシステムについて理解する	
	60%	評価に加えず	10%	評価に加えず	評価に加えず	30%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座3（第2版） 「介護の基本Ⅰ」中央法規出版					参考図書	介護福祉士国試ナビ		
学生へのメッセージ	豊かな知識と確かな技術、クールヘッドと熱いハート、笑顔を忘れずに利用者の生きる意欲を引き出せるような介護職を目指しましょう					履修上の注意			
実務経験と当該科目との関連									

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	介護の基本Ⅱ	講義	30 60	前期	後期	前期	後期	鯉沼聡美	○
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。				《本教科で重要となるキーワード》倫理観 介護福祉士の義務規定 介護保険サービス 自立支援 地域連携 多職種連携 社会資源 リスクマネジメント 権利擁護 感染予防					
《授業の概要》 介護を必要とする人の尊厳ある生活を支援する専門職として、基礎となる考え方を学び、「生活ニーズ」や「その人らしさ」を大切にすることを理解する。 また、介護福祉士の多様、複雑、高度な専門職としての社会的役割を理解する。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習とする。 また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ①介護を必要としている人について理解し、生活能力や意欲を引き出すことの必要性、自立に向けた支援について理解できる。 ②介護を必要とする人及び家族のさまざまな生活上の課題を理解する。 ③生活上の課題の解決のために必要なサービスや地域の社会資源を理解する。 ④介護福祉職に必要な感染に関する正しい知識を学ぶ。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	「介護の基本Ⅱ」の授業のねらいと概要を説明 介護福祉を必要とする人の生活							教科書p2	
②	「介護福祉を必要とする人たちの暮らし」 介護を必要とする高齢者・障害者の暮らし 動画視聴とレポート提出							教科書p17	
③	「その人らしさと、生活のニーズ」 生活のしずらさの理解と支援							教科書p37	
④	「介護福祉を必要とする人の生活支援①」 高齢者のためのフォーマルサービス							教科書p51	
⑤	「介護福祉を必要とする人の生活支援②」 障害者のためのフォーマルサービス・インフォーマルサービス							教科書p64	
⑥	「介護福祉を必要とする人の生活支援③」 振り返り							教科書 復習	
⑦	「地域連携」 利用者を取り巻く地域連携							教科書p71	
⑧	「介護におけるリスクマネジメント①」 介護における安全の確保							教科書p88	
⑨	「介護におけるリスクマネジメント②」 利用者の権利を守る 身体拘束とは							教科書p107	
⑩	「介護におけるリスクマネジメント③」 事故防止対策							教科書p120	
⑪	「介護におけるリスクマネジメント④」 感染症対策① 動画視聴							教科書p120	
⑫	「介護におけるリスクマネジメント⑤」 感染症対策②							教科書p120	
⑬	「介護におけるリスクマネジメント」振り返り 前期試験対策							教科書 復習	
⑭	前期試験 学習した内容の振り返り							試験範囲の学習	
⑮	前期試験解説と授業のまとめ							前期試験の復習	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	過去問題、合格ドリルを行う
	50%	20%	10%	なし	なし	20%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座4（第2版） 「介護の基本Ⅱ」中央法規出版					参考図書	完全図解「新しい介護」講談社・「介護リスクマネジメント（トラブル対策編）（事故防止編）」講談社・「介護福祉士国家試験過去問」中央法規・「介護福祉士国試ナビ」中央法規 他は授業時に紹介		
学生へのメッセージ	介護を必要とする人を取り巻く環境を理解して、 介護福祉士としての視点を持ちましょう。					履修上の注意	授業中はディスカッションなどにも積極的に参加する。 教科書だけではなく、配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておく。※レポートには宿題含む		
実務経験と当該科目との関連	介護職員（介護福祉士）としての勤務経験を生かし、①介護を必要としている人について理解し、生活能力や意欲を引き出すことの必要性、自立に向けた支援について理解②介護を必要とする人及び家族のさまざまな生活上の課題を理解③生活上の課題の解決のために必要なサービスや地域の社会資源を理解④介護福祉職に必要な感染に関する正しい知識を学ぶ授業を行う。								

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	介護の基本Ⅱ	講義	30 60	前期	後期	前期	後期	鯉沼聡美	○
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。				《本教科で重要となるキーワード》 多職種連携・多職種協働 介護従事者の安全・健康管理 リスクマネジメント 労働基準法					
《授業の概要》 住み慣れた地域で可能な限り生活をしたいと願っている高齢者や障がい者に対し、サービス提供方法と多職種連携の必要性を学ぶ。介護の理念を現実するために、倫理・知識・技術を統合し、利用者の生活の観点から「介護の基本」と「生活支援技術」を関連づけ、基礎的な力を培い、実践力を高めることを目指す。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 介護を理解する人の「尊厳の保持」や「自立支援」を目指した介護を展開していく。 介護従事者の安全に関する理念や知識を学び、生活支援技術や介護実習に役立てられるようになる。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ①多職種連携・地域連携の意味と必要性、その実際について理解できる。 ②介護実践におけるチームとは何か、多職種の役割りを学び、チームワークの意義・連携方法を理解する。 ③多職種や地域との連携においても1人の気づきが重要であることを理解する。 ④介護従事者の安全・健康管理を保障するための知識・技術を活用できるようにする。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	「協働する多職種の機能と役割①」 多職種連携・協働の必要性と目的							教科書p146	
②	「協働する多職種の機能と役割②」 多職種連携・協働の意義							教科書p146	
③	「協働する多職種の機能と役割③」 多職種連携協働に求められるコミュニケーション能力							教科書p169	
④	「協働する多職種の機能と役割④」 保健・医療・福祉職の役割りと機能							教科書p173	
⑤	「協働する多職種の機能と役割⑤」 多職種連携・協働の実際							教科書p190	
⑥	「協働する多職種の機能と役割⑥」 自立支援介護における多職種連携の実際							教科書p199	
⑦	「介護従事者の安全①」 健康管理の意義と目的 労働とは							教科書p208	
⑧	「介護従事者の安全②」 健康に働くための健康管理							教科書p215	
⑨	「介護従事者の安全③」 精神面での健康管理							教科書p222	
⑩	「介護従事者の安全④」 身体の健康管理 腰痛、頸肩腕障がい							教科書p255	
⑪	「介護従事者の安全⑤」 福祉用具を使用した介護技術 動画視聴								
⑫	「労働環境の整備①」 事例で考える労働環境							教科書p262	
⑬	「労働環境の整備②」 事故の発生構造を考える 後期試験対策							教科書p262	
⑭	後期試験 学習した内容の振り返り								
⑮	後期試験解説と授業のまとめ							前期試験の復習	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	過去問題、合格ドリルを行う
	50%	20%	10%	なし	なし	20%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座4（第2版） 「介護の基本Ⅱ」中央法規出版					参考図書		完全図解「新しい介護」講談社・「介護リスクマネジメント（トラブル対策編）（事故防止編）」講談社・「介護福祉士国家試験過去問」中央法規・「介護福祉士国試ナビ」中央法規 他は授業時に紹介	
学生へのメッセージ	介護を必要とする人を取り巻く環境を理解して、介護福祉士としての視点を持ちましょう。					履修上の注意		授業中はディスカッションなどにも積極的に参加する。教科書だけではなく、配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておく。※レポートには宿題含む	

実務経験と当該科目との関連	
---------------	--

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	介護の基本Ⅲ（医療と介護）	講義	30 30	前期 ●	後期	前期	後期	竹内麻貴	-
<p>《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>《授業の概要》 介護福祉士と密接にかかわる医療について理解を深める授業とする。</p> <p>《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 在宅介護、施設介護において医療と介護を切り離して支援することはできないこと、介護福祉士として医療について理解することは、医療職と連携し協働するために不可欠であることを学ぶ。</p> <p>《到達目標（具体的行動目標）》 医療と介護の関係を理解できる。医療保険制度を理解できる。地域包括ケアシステムを理解できる。医療における多職種連携の必要性を理解できる。薬の基礎知識を得る。医療的ケア、医行為を理解できる。医療倫理を理解できる。終末期医療を理解できる。</p>								<p>《本教科で重要となるキーワード》 医療 多職種連携 医療保険制度 医療施設 地域包括ケアシステム 医療的ケア 医行為 医療倫理 終末期医療</p>	
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	医療と介護 医療とは何か。多職種連携の必要性								
②	医療の歴史								
③	私たちの生活と医療 医療保険制度								
④	私たちの生活と医療 病院のしくみ 私たちが病気やけがをしたら								
⑤	医療法 医療施設 病院 診療所 助産所 介護老人保健施設 介護医療院 調剤薬局								
⑥	医療における専門職 地域ケア包括システムと在宅医療								
⑦	医療事業 救急医療 災害医療 へき地医療 小児医療 周産期医療								
⑧	薬の基礎知識								
⑨	臨床検査 検査方法と検査値								
⑩	医療的ケア(医行為ではない行為) 介護職が行えるもの								
⑪	医行為 (介護職が行える一定の研修が必要なもの) 行えないもの								
⑫	医療倫理 自己決定の尊重 意思決定支援 医療倫理4原則 倫理的課題 高度生殖医療 出生前診断 臓器移植 尊厳死 身体拘束								
⑬	医療事故 医療過誤								
⑭	後期試験								
⑮	終末期医療								
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	
	80%	5%	なし	5%	5%	5%	なし		
使用教科書	授業配布のプリントを使います。					参考図書	必用に応じて資料配布、DVD鑑賞を行います。		
学生へのメッセージ	講義形態はただ覚えるだけではなく、グループディスカッションや発表形式なども取り入れて行います。					履修上の注意	講義予定変更、小テストなどは事前にインフォメーションします。		
実務経験と当該科目との関連									

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	介護の基本Ⅳ（リハビリテーション）	講義	30 30	前期	後期	前期	後期	中島裕子	○
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしゅみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。				《本教科で重要となるキーワード》 リハビリテーション 全人間的復権 ノーマライゼーション インクルージョン ADL・IADL・自立 自立支援・尊厳					
《授業の概要》 リハビリテーションの考え方とその背景、リハビリテーションの概念、リハビリテーションにおける介護福祉士の役割、関係職種との連携を学び、「自立支援」「尊厳保持」「介護予防」の具体的な実践をイメージできるようにします。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 リハビリテーションとは何か、リハビリテーションの考え方と介護との関連性を学ぶことで、対象者の「尊厳の保持」「自立支援」を実践する力の基礎となる考え方を学びます。 「介護予防」の視点から地域包括ケアシステムの中での介護福祉福祉士としての姿勢を学びます。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ①介護予防やリハビリテーションの意義や目的を説明できる。 ②対象者のできることを活かす視点、技術を介護実践に関連づけることができる。 ③ひとのあるべき姿を理解し対象者の尊厳を尊重した介護実践ができる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	授業説明 リハビリテーションの概念・理念とは 介護福祉士がリハビリテーションを学								
②	リハビリテーションの体系・種類・内容 リハビリテーションにかかわる職種								
③	リハビリテーションの領域 チームアプローチ								
④	障害の理解と評価 ADL IADL QOLの概念							小テスト①	
⑤	リハビリテーションにおける自立支援								
⑥	リハビリテーションにおける自立支援 臥位・座位・立位・歩行								
⑦	リハビリテーションと介護 リハビリテーション介護技術							小テスト②	
⑧	臥位から座位になるまでの演習								
⑨	移動動作の援助 何とか一人で起きられる 起きられない								
⑩	介護予防とリハビリテーション、地域リハビリテーション							小テスト③	
⑪	高齢者に多い疾患（脳卒中・大腿骨頸部骨折）とリハビリテーション								
⑫	介護予防 基本チェックリスト 介護予防運動							小テスト④	
⑬	関節可動域の演習								
⑭	定期試験								
⑮	試験振り返り、まとめ								
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	小テストにより知識の定着を図る
	70%	10%	なし	なし	10%	10%	なし		
使用教科書	配布資料 最新 介護福祉士養成講座3（第2版） 「介護の基本Ⅰ」中央法規出版				参考図書		受験ワークブック（上） 授業内で適宜提示する。		
学生へのメッセージ	どのような状況でも対象者が「できること」「可能性」に気づき、活かす視点と創造する介護を学びます。				履修上の注意		小テストの実施は授業の進行により変更することもあります。課題は授業内で提示します。提出状況により評価します。		
実務経験と当該科目との関連	看護師としての病院・看護専門学校での実務経験を生かし、関係職種との連携をはかりながら対象者の「尊厳の保持」「自立支援」を実践する力の基礎となる考え方ができる授業を行う。								

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験	
				1年		2年				
介護	コミュニケーション技術Ⅰ	演習	30 30	前期	後期	前期	後期	鯉沼聡美	○	
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。				《本教科で重要となるキーワード》 自己覚知 自己開示 信頼関係 双方向 受容 共感 傾聴 家族支援 多職種連携 言語・非言語コミュニケーション ケースワークの原則 チームマネジメント						
《授業の概要》 介護における意義と目的、介護技術とコミュニケーションの関係性について学習する。介護福祉士に求められるさまざまなコミュニケーション技法について理論と事例を組み合わせて学習する。										
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 介護を必要とする者の理解や援助的關係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける。										
《到達目標（具体的行動目標）》 ①介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割りについて理解し、自分の言葉で説明できる。 ②さまざまなコミュニケーション技法話を聞く技法、感情表現を察する技法、意欲を引き出す技法など）について理解する。										
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等		
①	授業のねらいと概要を説明。「介護におけるコミュニケーションの基本①」 コミュニケーションの意義と目的							教科書p2～		
②	「介護におけるコミュニケーションの基本②」 介護福祉士のコミュニケーション							教科書p6～		
③	「援助関係とコミュニケーション」 援助をするということはどういうことなのかを学ぶ							教科書p11～		
④	「コミュニケーション態度に関する基本技術①」 傾聴とは							教科書p22～		
⑤	「コミュニケーション態度に関する基本技術②」 受容と共感							教科書p28, 29		
⑥	「言語。非言語・準言語コミュニケーション」							教科書p35		
⑦	「目的別のコミュニケーション技術①」 利用者の意欲を高めるための動機づけ							教科書p43		
⑧	「目的別のコミュニケーション技術②」 意思決定を支援するための基本的な考え							教科書p52		
⑨	「介護現場におけるコミュニケーション①」 映画視聴							自分なりのコミュニケーションを確立する		
⑩	「介護現場におけるコミュニケーション②」 映画視聴							自分なりのコミュニケーションを確立する		
⑪	「集団におけるコミュニケーション技術①」 集団の意義							教科書p59～71		
⑫	「集団におけるコミュニケーション技術②」 集団運営の留意点							教科書p59～71		
⑬	「生活支援における介護技術とコミュニケーション」 動画鑑賞「バリデーション」 後期試験対策							教科書		
⑭	後期試験 学習した内容の振り返り							試験範囲の学習		
⑮	後期試験解説 「利用者の感情表現を察する技法」 動画鑑賞「ユマニチュード」							コミュニケーション技術を振り返る		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策		
	50%	20%	なし	10%	なし	20%	なし	過去問題を授業中に行う 合格ドリルを行う		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座5（第2版） 「コミュニケーション技術」中央法規出版					参考図書		完全図解「新しい介護」講談社・「介護リスクマネジメント（トラブル対策編）（事故防止編）」講談社・「介護福祉士国家試験過去問」中央法規・「介護福祉士国試ナビ」中央法規 他は授業時に紹介		
学生へのメッセージ	介護を必要とする利用者やその家族への理解を深めて、信頼関係を築きましょう。信頼の第一歩はコミュニケーションです。					履修上の注意		授業中はディスカッションなどにも積極的に参加する。教科書だけではなく、配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておく。※レポートには宿題含む		
実務経験と当該科目との関連	介護職員（介護福祉士）として介護業務に従事した際に経験したコミュニケーション技術を生かし、①介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割りについて理解し、自分の言葉で説明できる。②さまざまなコミュニケーション技法話を聞く技法、感情表現を察する技法、意欲を引き出す技法など）について理解できる授業を行う。									

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	コミュニケーション技術Ⅱ	演習	30 30	前期	後期	前期	後期	鯉沼聡美	○
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。								《本教科で重要となるキーワード》 利用者と家族とのコミュニケーション ケースワークの原則 自己決定 エンパワメント 自立支援 記録 報告 会議 多職種連携 リスクマネジメント	
《授業の概要》 コミュニケーション障害を理解し、障害のある利用者への対応の基本をふまえ、利用者の特性に応じたコミュニケーションの実践を学習していく。また介護におけるチームのコミュニケーションをすすめる具体的な方法について学習する。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 介護を必要とする者の理解や援助的關係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ①介護を必要とする利用者のそれぞれの状態について理解し、それに応じたコミュニケーション技法を習得する。 ②利用者・家族との関係づくりについて理解する。 ③介護におけるチームのコミュニケーションに必要な記録や報告を学び、技術を習得する。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	授業の概要を説明「利用者の特性に応じたコミュニケーション」 コミュニケーション障害を理解する さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援① 視覚障害・聴覚障害のある人							コミュニケーション技術の復習 教科書p70～78	
②	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援① 視覚障害・聴覚障害のある方（映画視聴 感想） 構音障害のある人							教科書p79～91	
③	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援② 失語症・認知症のある方							教科書p92～105	
④	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援③ 認知症のある方							教科書p106～116	
⑤	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援③ 認知症・精神障害のある方							教科書p117～126	
⑥	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援④ 精神障害・知的障害のある方							教科書p127～133	
⑦	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援⑤ 知的障害・発達障害のある方							教科書p134～141	
⑧	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援⑦ 高次脳機能障害・重症心身障害のある方							教科書p142～154	
⑨	家族とのコミュニケーション① 家族との関係づくり・家族への助言・指導・調整							教科書p162～183	
⑩	家族関係と介護ストレスへの対応 介護におけるチームのコミュニケーション①							教科書p186～200	
⑪	介護におけるチームのコミュニケーション② 介護における記録の意義と目的							教科書p201～228	
⑫	介護におけるチームのコミュニケーション③ 会議・議事進行・説明の技術							教科書p229～242	
⑬	介護におけるチームのコミュニケーション④ 事例検討に関する技術・情報の活用と管理 後期試験対策							教科書p243～255	
⑭	前期定期試験 学習した内容の振り返り							試験範囲の学習	
⑮	前期試験の解説と授業のまとめ							コミュニケーション技術を振り返る	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	過去問題を授業中に行う 合格ドリルを行う
	50%	20%	なし	10%	なし	20%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座5 「コミュニケーション技術」中央法規出版				参考図書			完全図解「新しい介護」講談社・「介護リスクマネジメント（トラブル対策編）（事故防止編）」講談社・「介護福祉士国家試験過去問」中央法規・「介護福祉士国試ナビ」中央法規 他は授業時に紹介	
学生へのメッセージ	介護を必要とする利用者やその家族への理解を深めて、信頼関係を築きましょう。信頼の第一歩はコミュニケーションです。				履修上の注意			授業中はディスカッションなどにも積極的に参加する。教科書だけではなく、配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておく。※レポートには宿題含む	
実務経験と当該科目との関連	介護職員（介護福祉士）として介護業務に従事した際に経験したコミュニケーション技術を生かし、①介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解し、自分の言葉で説明できる。②さまざまなコミュニケーション技法話を聞く技法、感情表現を察する技法、意欲を引き出す技法など）について理解できる授業を行う。								

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験	
				1年		2年				
介護	生活支援技術Ⅰ－①（住居）	演習	10 30	前期	後期	前期	後期	山本和広	-	
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。							《本教科で重要となるキーワード》 手摺の設置、引戸の利用、段差の解消			
《授業の概要》 教科書P38～72 基本的には、教科書の読みと解説、授業終わりの小テストで1クール。										
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解できるようにする。生活支援をするにあたり、居住環境整備がどうしても必要なのか、意義と目的がわかるようにしていきたい。具体的には、一般の住居をどのように改修していけば、使いやすくなるのかを形に（絵が描ける）できるようにしていく。										
《到達目標（具体的行動目標）》 住まいの多様性を理解できる。 生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解できる。 一番身近なトイレを、どのように改修するかを答えられる（絵に描ける）ようにする。										
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等		
①	居住環境の整備 P38～46 住まいの役割と機能、生活空間・小テスト									
②	居住環境の整備 P46～53 加齢と生活空間・小テスト									
③	居住環境の整備 P54～63 快適な室内環境・小テスト									
④	居住環境の整備 P64～72 住まいの維持・管理、安全に暮らすための生活環境・小テスト									
⑤	居住環境の整備 振り返り 日常生活のための対応策・小テスト～1年次テスト									
評価内容・方法		試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	小テスト
		100%	評価に加えず	勘定有	評価に加えず	評価に加えず	場合による	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座6（第2版） 「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版					参考図書	なし			
学生へのメッセージ	試験用紙には、何かを書く。 書かずに提出しない。					履修上の注意	集中			
実務経験と当該科目との関連										

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	生活支援技術Ⅰ-①(被服)	演習	10 30	前期	後期	前期	後期	飯田敬子	-
				《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。					
《授業の概要》 洗濯の意義：洗濯をしないと吸水性や保温性などが損なわれ、かびや悪臭なども発生し、不衛生な状態になる為、衣類等の本来の機能を回復させる。 繊維タグ・洗濯マークを読み取り、洗濯の仕分けが判断できる。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 生活の継続性を支援する観点から、対象者が一人ひとりの状態に応じた家事（洗濯）を自立的に行うことを支援するための基礎的な知識と技術を学ぶ。洗濯物の仕分けができるようになる為：繊維の種類・用途・特徴を学ぶ。適切な洗濯介助方法が判断できる為：洗濯マーク表示にて適切な選択方法を学ぶ。洗濯方法の判断ができる為：洗いや干し方の手順が、適切に判断できる。									
《到達目標（具体的行動目標）》 生活の継続性を支援する観点から、対象者が一人ひとりの状態に応じた家事（洗濯）を自立的に行うことを支援するための基礎的な知識と技術を習得できる。自分の衣類に付いている洗濯表示を調べ、適切な選択介助方法が判断できる。被服の実習を掘下げる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	自分の洗濯方法を確認する。配布用紙に記入し提出する。							自分の被服のタグの確認のため5点以上記入できるように準備する	
②	繊維の種類・繊維名・天然繊維・化学繊維・動物繊維							配布資料を通読しておく	
③	取り扱い絵表示の確認、衣類の点検・分類の方法							配布資料を通読しておく	
④	衣類の収納・たたみ方・アイロンがけ							配布資料を通読しておく	
⑤	被服期末テスト							配布資料を読み返し、試験に臨む	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	被服の素材、繊維の種類はよく出題される。代表的な繊維の種類と特徴を理解する。
	60%	なし	10%	なし	なし	30%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座6（第2版） 「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版					参考図書			
学生へのメッセージ	自分の衣服の洗濯マークを常に確認し洗濯をする。					履修上の注意	1、積極的の授業に参加すること 2、配布資料はファイル等にまとめて活用すること		
実務経験と当該科目との関連									

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験	
				1年		2年				
介護	生活支援技術 I - ① (家庭生活)	演習	10 30	前期	後期	前期	後期	飯田敬子	-	
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できる よう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。								《本教科で重要となるキーワード》 高齢世帯 クーリングオフ制度 応急手当 入退院時の対応 災害対策		
《授業の概要》 高齢者の生活を家族形態や経済状況などの変化と照らし合わせながら学習する。 介護福祉職として必要な応急処置の知識と技術を学ぶ。 福祉用具の機能を学び、どのような場面で活用しているかを学ぶ。										
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 生活の継続性を支援する観点から、対象者が一人ひとりの状態に応じた家事（家庭経営）を自立的に行うことを支援 するための基礎的な知識と技術を習得できる。										
《到達目標（具体的行動目標）》 生活の継続性を支援する観点から、対象者が一人ひとりの状態に応じた家事（家庭経営）を自立的に行うことを支援するための基礎的な知識と技 術を習得する。①高齢者のさまざまな生活を知り、介護福祉士として高齢者を高齢者を理解する助けとなる。②高齢者のさまざまな生活を知り、 介護福祉士としてどのような心構えが必要かを考えられる。③高齢者に起こりえる事故と予防の支店を把握し知識と技術を身につける。										
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等		
①	授業説明 家庭経営 家計管理							教科書P251-P254		
②	自立の向けた家事の介護 買い物介護							教科書P220-P226 P248-P251		
③	応急手当の知識と技術							教科書P266-P277		
④	災害時における生活支援							教科書P280-P306		
⑤	後期定期試験 後期に学習した内容のまとめ							試験範囲の学習		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	家庭生活と家計管理、高齢者の消費生活はよく出題されるので理解する。 過去問題とドリルを行う。	
	60%	なし	なし	なし	なし	40%	なし			
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座6（第2版） 「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版						参考図書	「新しい介護」講談社・中央法規・「介護福祉士 国試ナビ」中央法規 他は授業時に紹介		
学生へのメッセージ	高齢者の想定される生活を幅広く学ぶこと で、介護の知識や技術を高めていきましょう。					履修上の注意	1、積極的の授業に参加すること 2、配布資料はファイル等にまとめて活用すること			
実務経験と当該科目との関連										

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	生活支援技術Ⅰ-②(住居)	演習	16 60	前期	後期	前期	後期	山本和広	-
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。							《本教科で重要となるキーワード》 バリアフリーとユニバーサルデザイン		
《授業の概要》 生活支援をするにあたり、居住環境整備がどうしても必要か、意義と目的がわかるようにする。相手を思いやることを念頭に、誰の為の法整備か、誰の為の改修かを考える。実際の事例を現場で直接見て、現状がどういものであるかも考えたい。									
《科目目標(総括目標・総括目標設定の理由)》 住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解できるようにする。 介護保険を利用した住宅改修を行う場合、何を改修すべきかを分かるようにする。									
《到達目標(具体的行動目標)》 住まいの多様性が理解できる。生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解できる。 玄関、廊下、トイレ、浴室などの、1、段差を解消する事。2、扉を開き戸から引戸に取替える事。3、手摺の取付。 ユニバーサルデザインの身近な利用例や、介護保険の支給限度額がわかるようにする。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	P53～55、P63・64～69 教科書の残り 住まいの維持管理・災害に対する備え・高齢者・障害者の住まい							小テスト	
②	実習 学校から駅までの障害 感想文							校外授業	
③	P71～80 教科書の残り 居住環境の整備における他職種との連携							小テスト	
④	実習 学校の中の危険 感想文							校内実習	
⑤	介護保険を利用した住宅改修で重点をおく所 介護保険の特例について・ケアマネの理由書作成							小テスト	
⑥	実習 バリアフリー新法の実例 感想文							校外授業	
⑦	実習 色について 感想文							小テスト	
⑧	介護保険を利用した住宅改修で重点をおく所 居住環境全般の試験							定期試験	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	小テスト
	100%	評価に加えす	勘定有	評価に加えす	評価に加えす	場合による	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座6 「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版					参考図書	点字絵本		
学生へのメッセージ	とにかく見る事でそれが何かを理解する。					履修上の注意	天候により、授業の入替あり		
実務経験と当該科目との関連									

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	生活支援技術Ⅰ-②（被服）	演習	12 60	前期	後期	前期	後期	飯田敬子	-
<p>《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより</p> <p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>《授業の概要》</p> <p>高齢者の身体機能を知り、被服における工夫により安全性・機能性を兼ね揃える。家事支援における裁縫介助の方法を掘り下げる。</p> <p>《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》</p> <p>生活の継続性を支援する観点から、対象者が一人ひとりの状態に応じた家事（裁縫）を自立的に行うことを支援するための基礎的な知識と技術を習得する。「社会性を保った衣服に整える」衣服の破損に気づき、適切な対応で処置ができる。衣類の管理ができるようになる為に、衣類のアセスメントができ、衣類の補修ができるようになる為に、補修箇所に適した補修方法を学び、実践する。</p> <p>《到達目標（具体的行動目標）》</p> <p>生活の継続性を支援する観点から、対象者が一人ひとりの状態に応じた家事（裁縫）を自立的に行うことを支援するための基礎的な知識と技術を習得する。裁縫で基本となる、なみ縫い、たま止め、玉結び、返し縫、まつり縫い、ボタン付け、ミシン縫い、ひも通し、アイロンがけを実践する。</p>							<p>《本教科で重要となるキーワード》</p> <p>衣類の補修・管理の方法</p>		
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	衣類のトラブル対応法 衣類の補修 基本縫い（玉結び・玉止め・なみ縫い・返し縫い）							裁縫セット、定規（30cm程度）チャコペン	
②	基本縫い（玉止め、玉結び、なみ縫い、返し縫い）の実習							教科書P235-P236	
③	基本縫い（玉止め、玉結び、なみ縫い、返し縫い）の実習								
④	基本縫い（まつり縫い、ボタン付け、ひも通し、ミシンかけ）の実習							ミシンの使いかた	
⑤	基本縫い（まつり縫い、ボタン付け、ひも通し、ミシンかけ）の実習							アイロンの使いかた	
⑥	作品を仕上げ提出する								
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	用途にあった縫い方を理解する。
	60%	なし	10%	なし	なし	30%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座6 「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版					参考図書			
学生へのメッセージ	授業で実習した「衣服の補修」自宅で該当する物があったら実施し、経験値を高めて下さい。					履修上の注意		1、積極的の授業に参加すること 2、配布資料はファイル等にまとめて活用すること	
実務経験と当該科目との関連									

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	生活支援技術 I -② (栄養調理)	演習	16 60	前期	後期	前期	後期	飯田敬子	-
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できる よう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。							《本教科で重要となるキーワード》 栄養の基本 栄養的特徴と働き 高齢者の食生活の基本、嗜好		
《授業の概要》 「食の大切さ」を学び、自分の食生活を知ることから始まる。 年齢による調理のちがいを知り日常的に家庭に有る食材を利用して手軽にできる食事を作る。 グループで実施することで互いに学び合い調理が楽しく思える授業を目指す。									
《科目目標 (総括目標・総括目標設定の理由)》 生活の継続性を支援する観点から、対象者が一人ひとりの状態に応じた家事(調理)を自立的に行うことを支援するための基礎的な知識と技術を習得する。調理介助・支援ができるようになる為に、高齢者の特徴を習得し、調理手順:食材の下ごしらえ・包丁で切る・炒める・煮る・焼く・味付け・盛り付け等を実践する。医療的観点から食品のとりあつかい、保存方法、衛生管理、食中毒予防を学ぶ。									
《到達目標 (具体的行動目標)》 生活の継続性を支援する観点から、対象者が一人ひとりの状態に応じた家事(調理)を自立的に行うことを支援するための基礎的な知識と技術を習得する。1食分の高齢者の食事が作れるようになる。(米飯・主菜・副菜・汁もの・デザート等) 病態に適した食材を選び、調理方法の工夫、食材の切り方、味付け方法を実践する。塩分の多い食材を知る。減塩食をおいしく食べる工夫を学び、実践する。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	高齢者の特徴と食事。食の大切さ・健康作りのための食生活を理解する。							エプロン、三角巾、マスク、布巾、タオル	
②	加齢に伴う能力低下・不足しがちな栄養素・高齢者の脱水症状 米飯・煮込みハンバーグ・コーンスープ・トマトのオリーブあえ・プリン							事前配布した調理手順を通読しておく	
③	調理の際に出る残物の分別・リサイクル等の廃棄物の処理 高齢者の嗜好・食べやすくするための工夫・冷凍保存した食材・食中毒予防								
④	基本的食材の切り方 米飯・肉じゃが・けんちん汁・茶わんむし・たんさん饅頭							事前配布した調理手順を通読しておく	
⑤	食事を楽しむ。季節を感じる・見た目のおいしさ								
⑥	五目おこわ・ささみの梅肉あえ・かぼちゃの煮つけ・みそ汁・水ようかん							事前配布した調理手順を通読しておく	
⑦	栄養調理期末テスト							配布資料を読み返し、試験に臨む	
⑧	常備食材で簡単に用意できる1食を作る(残り材料の利用) 煮こみうどん・ポテトサラダ・みたらし団子							残り材料での一品を考える	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	
	60%	なし	なし	なし	なし	40%	なし	栄養素、食中毒、生活習慣病と高齢者の食生活はよく出題されるので理解する。	
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座6 「生活支援技術 I」 中央法規出版 217P～228P					参考図書	料理の本		
学生へのメッセージ	身近な食材で手軽に調理することで手作りの楽しさを体験しましょう					履修上の注意	1、積極的の授業に参加すること 2、配布資料はファイル等にまとめて活用すること		
実務経験と当該科目との関連									

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	生活支援技術Ⅰ-②（家庭生活）	演習	16 60	前期	後期	前期	後期	鯉沼聡美	○
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。				《本教科で重要となるキーワード》 超高齢化社会 健康寿命 福祉用具 ノーリフティングポリシー パワーバランス 生理学的曲線					
《授業の概要》 ・高齢者福祉生活の変化を学習する。 ・福祉用具の意義やこれからの可能性について、実技を通して考える。 ・高齢期を心豊かに過ごすために必要なことは何か考える。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 福祉用具や福祉機器を活用する意義やその目的を理解する。介護を必要とする方の能力に応じた福祉用具の選択と活用する知識を習得し、安全に活用できる介護技術や知識を得る。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ①福祉用具や福祉機器を活用する意義・目的を理解し、生活の中での活用や可能性についても考えられる。②それぞれの障害にあった介護技術を習得し、福祉用具を安全に活用できる。③介護を必要とする方の、生活の中でのリハビリの重要性を理解できる。④超高齢者社会の到来を目の前にし、どのような心構えが必要かを考えられる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	授業説明、家事の介護における多職種との連携								
②	生活支援における福祉用具の重要性 ～ 福祉用具とは何か								
③	福祉用具の種類								
④	福祉用具の種類								
⑤	福祉用具を選ぶための視点、福祉用具専門員の役割								
⑥	福祉用具を選ぶ視点							福祉用具専門員の役割、移動用リフトの演習	
⑦	自分たちの身近にある福祉用具							グループワーク	
⑧	前期試験 学習した内容の振り返り 授業の理解度の確認								
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	高齢者の福祉政策、福祉用具はよく出題されるので理解する。さらに国家試験に関わることは参考資料を参照とする。
	60%	なし	30%	なし	なし	10%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座6 「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版					参考図書	「新しい介護」講談社・「介護福祉士国試ナビ」中央法規・「いちばんわかりやすい介護術」永岡書店 他		
学生へのメッセージ	現在の高齢者問題を社会的な視点からみていくことも大切です。					履修上の注意	教科書だけではなく、配布資料からも試験問題が出題されるのでまとめておく。		
実務経験と当該科目との関連	介護職員（介護福祉士）としての勤務経験を生かし、家庭生活についての知識を総合的に理解すると共に生活支援技術に役立てる授業を行う。								

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	生活支援技術Ⅱ-①	演習	30 30	前期	後期	前期	後期	池上千恵美	○
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。								《本教科で重要となるキーワード》 生活支援 自立に向けた介護 生活支援技術	
《授業の概要》 生活支援と生活支援技術の意義を理解し、自立に向けた「身じたく」「移動」「食事」「入浴」「清潔保持」「排泄」「休息・睡眠」の介護技術について学ぶ。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 生活支援の理解ができる。対象者の能力を活用・発揮して自立に向けた移動・身じたく・食事・入浴・清潔保持・排泄における生活支援の基礎的な知識と技術を習得する。生活支援実践の根拠を説明できる。健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解する。安眠を促す環境を整える支援ができる。									
《到達目標（具体的行動目標）》 生活支援の理解ができる。対象者の能力を活用・発揮して自立に向けた移動・身じたく・食事・入浴・清潔保持・排泄における生活支援の基礎的な知識と技術を習得できる。生活支援実践の根拠を説明できる。健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解できる。安眠を促す環境を整える支援（ベッドメイキング）ができる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	授業説明 生活支援の理解 生活支援、生活支援技術の意味 生活支援のあり方、生活支援のポイント							教科書 生活支援技術Ⅰ p2-12	
②	生活支援の理解 根拠にもとづく生活支援技術 利用者主体の生活支援技術の実践							教科書生活支援技術Ⅰ p13-28	
③	自立に向けた休息と睡眠の介護 睡眠における生活支援技術 ベッドメイキング							教科書 生活支援技術Ⅱ p220^237	
④	自立に向けた休息と睡眠の介護 睡眠における生活支援技術 ベッドメイキング							教科書 生活支援技術Ⅱ p220^237	
⑤	自立に向けた休息と睡眠の介護 睡眠における生活支援技術 ベッドメイキング							教科書 生活支援技術Ⅱ p220^237	
⑥	自立に向けた移動の介護 移動の意義と目的 ボディメカニクス							教科書 生活支援技術Ⅰ p84^123	
⑦	自立に向けた移動の介護 移動・移乗の生活支援技術 体位変換							教科書 生活支援技術Ⅰ p84^123	
⑧	自立に向けた移動の介護 移動・移乗の生活支援技術 体位変換							教科書 生活支援技術Ⅰ p84^123	
⑨	自立に向けた身じたくの介護 身じたくの意義と目的 衣服着脱の生活支援技術							教科書 生活支援技術Ⅱ p2^7p48^59	
⑩	自立に向けた食事の介護 食事の意義と目的 食事における生活支援技術							教科書 生活支援技術Ⅱ教科書p74^99	
⑪	自立に向けた排泄の介護 排泄の意義と目的 排泄におけるせい技術							教科書 生活支援技術Ⅱ p162^211	
⑫	自立に向けた入浴の介護 入浴の意義と目的 入浴における生活支援技術							教科書 生活支援技術Ⅱ p112^159	
⑬	実技試験 ベッドメイキング							教科書 生活支援技術Ⅰ p227^232	
⑭	前期試験							これまでの学習内容をまとめる。	
⑮	前期試験解説							試験結果をアセスメントする。	
評価内容・方法	試験	小テスト	演習記録	発表	作品・課題	授業態度・出席	実技試験	国家試験の対策	生活支援技術は全問題の20%を占める。基本的な知識と技術を理解していれば解ける。こことからだのしくみと関連している。なぜその支援技術が必要なのか根拠を理解する。
	40%	なし	10%	なし	なし	10%	40%		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座6、7（第2版）「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」中央法規出版					参考図書	授業の中で随時紹介する。		
学生へのメッセージ	この科目は「こことからだのしくみ」と関連しているので、心身機能について理解をしておく。					履修上の注意	身だしなみを整えて演習に望む。この科目は筆記試験、実技試験とともに合格することが必須である。		
実務経験と当該科目との関連	介護職員（介護福祉士）としての勤務経験を生かし、その人の自立・自律を尊重し、根拠に基づき安全に支援する生活支援技術（介護技術）について習得できる授業を行う。								

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	生活支援技術Ⅱ-②	演習	60 60	前期	後期	前期	後期	池上千恵美	○
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。							《本教科で重要となるキーワード》 自立に向けた介護 生活支援技術		
《授業の概要》 生活支援と生活支援技術の意義を理解し、自立に向けた「身じたく」「移動」「食事」「入浴」「清潔保持」「排泄」「休息・睡眠」の介護技術について学ぶ。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 生活支援の理解ができる。対象者の能力を活用・発揮して自立に向けた移動・身じたく・食事・入浴・清潔保持・排泄における生活支援の基礎的な知識と技術を習得する。生活支援実践の根拠を説明できる。健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解する。安眠を促す環境を整える支援ができる。									
《到達目標（具体的行動目標）》 生活支援の理解ができる。対象者の能力を活用・発揮して自立に向けた移動・身じたく・食事・入浴・清潔保持・排泄における生活支援の基礎的な知識と技術を習得する。生活支援実践の根拠を説明できる。健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解する。安眠を促す環境を整える支援（シーツ交換）ができる。要介護者への基本的な生活支援技術（介護技術）が習得できる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①②	授業説明 休息・睡眠の介護 睡眠の意義と目的 ベッド上に利用者が臥床している場合のシーツ交換							教科書 生活支援技術Ⅱ p220~245	
③④	自立に向けた身じたくの介護 身じたくの意義と目的 衣服着脱 ベッド上 前開き上衣・スポン ユかた着脱							教科書 生活支援技術Ⅱ p60~66	
⑤⑥	自立に向けた入浴の介護 入浴の意義と目的 入浴の介助 家庭浴 機械浴 訪問入浴							教科書 生活支援技術Ⅱ p108~127	
⑦⑧	自立に向けた清潔保持の介護 全身清拭 部分清拭							教科書 生活支援技術Ⅱ p128~136	
⑨⑩	自立に向けた清潔保持の介護 部分浴の介助 手浴 足浴							教科書 生活支援技術Ⅱ p139~145	
⑪⑫	自立に向けた身じたくの介護 口腔ケア 自立に向けた清潔保持の介護 洗髪の介助							教科書 生活支援技術Ⅱ p28~47 p145~148	
⑬⑭	自立に向けた移動の介護 安楽な体位の介助 褥瘡予防							生活支援技術Ⅰ 教科書p124~135	
⑮⑯	自立に向けた移動の介護 ベッドから車いすへの移乗介助 車いすからベッドへの移乗介助							生活支援技術Ⅰ 教科書p146~162	
⑰⑱	自立に向けた移動の介護 車いす移動介助 段差超え 上り坂・下り坂 歩行介助 杖歩行 移乗・移動・歩行の福祉用具							生活支援技術Ⅰ 教科書p177~188	
⑲⑳	自立に向けた食事の介護 食事の意義と目的 誤嚥、窒息予防 脱水予防 ベッド上での食事介助							教科書 生活支援技術Ⅱ p74~99	
㉑㉒	自立に向けた排泄の介護 排泄の意義と目的 ポータブルトイレでの排泄介助							教科書 生活支援技術Ⅱ p162~179	
㉓㉔	実技試験								
㉕㉖	自立に向けた排泄の介護 尿器・差し込み便器の介助 おむつ交換							教科書 生活支援技術Ⅱ p186~197	
㉗㉘	前期試験 実技試験再試験							これまでの学習内容をまとめる。	
㉙㉚	前期試験解説 これまでの学習を振り返る。							試験結果をアセスメントする。	
評価内容・方法	試験	小テスト	演習記録	発表	作品・課題	授業態度・出席	実技試験	国家試験の対策	生活支援技術は全問題の20%を占める。基本的な知識と技術を理解していれば解ける。ここからだのしくみと関連している。なぜその支援技術が必要なのか根拠を理解する。
	40%	なし	10%	なし	なし	10%	40%		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座6、7（第2版） 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」中央法規出版					参考図書	授業の中で随時紹介する。		
学生へのメッセージ	この科目は「ここからだのしくみ」と関連しているので、心身機能について理解が必要である。					履修上の注意	身だしなみを整えて演習に望む。 この科目は筆記試験、実技試験ともに合格することが必須である。		
実務経験と当該科目との関連	介護職員（介護福祉士）としての勤務経験を生かし、その人の自立・自律を尊重し、根拠に基づき安全に支援する生活支援技術（介護技術）について習得できる授業を行う。								

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	生活支援技術Ⅱ-③	演習	60 60	前期	後期	前期	後期	池上千恵美	○
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できる よう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。								《本教科で重要となるキーワード》 自立に向けた介護 生活支援技術	
《授業の概要》 生活支援と生活支援技術の意義を理解し、自立に向けた「身じたく」「移動」「食 事」「入浴」「清潔保持」「排泄」「休息・睡眠」「人生の最終段階」の介護技 術について学ぶ。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 生活支援の理解ができる。対象者の能力を活用・発揮して自立に向けた移動・身じたく・食事・入浴・清潔保持・排泄における生活支援 の基礎的な知識と技術を習得する。生活支援実践の根拠を説明できる。人生の最終段階にある人と家族のために、終末期の経過に沿った 支援方法を理解する。人生の最終段階におけるチームケアを理解する。健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解する。									
《到達目標（具体的行動目標）》 生活支援の理解ができる。対象者の能力を活用・発揮して自立に向けた移動・身じたく・食事・入浴・清潔保持・排泄における生活支援の基礎的 な知識と技術を習得する。生活支援実践の根拠を説明できる。人生の最終段階にある人と家族のために、終末期の経過に沿った支援方法を理解す る。人生の最終段階におけるチームケアを理解する。健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解する。要介護者への基本的な生活支援技術 （介護技術）が習得できる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①②	授業説明 睡眠の介護 睡眠の意義と目的 睡眠と薬 休息・睡眠における多職種との連携							教科書 生活支援技術Ⅱ p216-247	
③④	人生の最終段階の意義と介護の役割 人生の最終段階における多職種との連携							教科書p250-284	
⑤⑥	自立に向けた身じたくの介護 医行為ではない髭剃り、爪切り、耳の清潔介助 身じたくの介護における多職種との連携							教科書p18-28 p66-71	
⑦⑧	自立に向けた排泄の介護 排泄の介護における多職種との連携 自己導尿 座薬挿入 浣腸 ストーマがある場合の介助							教科書 生活支援技術Ⅱp200-213	
⑨⑩	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔保持の介護における多職種との連携 自立に向けた移動の介護 安楽な体位 褥瘡予防							教科書 生活支援技術Ⅱp147-154 教科書 生活支援技術Ⅱp124-144	
⑪⑫	自立に向けた移動の介護 移動の介護における多職種との連携 スライディングボードによる車 いす移乗 自立に向けた食事の介護 食事の介護における多職種との連携							教科書 生活支援技術Ⅱp187-191 教科書 生活支援技術Ⅱp96-101	
⑬⑭	コミュニケーション技術 演習課題 山田太郎 鈴木花子							配布資料を読む。	
⑮⑯	移動の介護 演習課題 歩行介助 車いす移乗							配布資料を読む。	
⑰⑱	排泄の介護 演習課題 ベッド臥床時の排泄介助 演習課題 ポータブルトイレ排泄介助							配布資料を読む。	
⑲⑳	衣服着脱の介護 演習課題 座位での着脱介助 演習課題 ベッド臥床時の着脱介助							配布資料を読む。	
㉑㉒	食事の介護 演習課題 食事介助 入浴の介護 演習課題 入浴介助							配布資料を読む。	
㉓㉔	食事の介護・食後の口腔ケア 入浴の介護・足浴介助 実技試験に備えて、これまでの演習課題の復習を行う。							これまでの演習課題を復習する。	
㉕㉖	実技試験							これまでの演習課題を復習する。	
㉗㉘	前期試験 実技試験再試験 生活支援技術DVD視聴							これまでの学習内容をまとめる。	
㉙㉚	前期試験解説 これまでの学習を振り返る。 介護実習前の生活支援技術練習							試験結果をアセスメントする。	
評価内容・方法	試験	小テスト	演習記録	発表	作品・課題	授業態度・出席	実技試験	国家試験の対策	生活支援技術は全問題の20%を占める。基本的な知識 と技術を理解していれば解ける。ここからだのし くみと関連している。 なぜその支援技術が必要なの か根拠を理解する。
	40%	なし	10%	なし	なし	10%	40%		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座6、7 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」 中央法規出版					参考図書	授業の中で随時紹介する。		
学生への メッセ ージ	この科目は「ここからだのし くみ」と関 連しているので、心身機能について理解が必 要である。					履修上の注意	身だしなみを整えて演習に望む。 この科目は筆記試験、実技試験とも合格することが必須で ある。		
実務経験と 当該科目との関連	介護職員（介護福祉士）としての勤務経験を生かし、その人の自立・自律を尊重し、根拠に基づき安全に支援 する生活支援技術（介護技術）について習得できる授業を行う。								

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験		
				1年		2年					
介護	生活支援技術Ⅲ	演習	60 60	前期	後期	前期	後期	鯉沼聡美	○		
				《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。						《本教科で重要となるキーワード》 尊厳 個別性 自立支援 エンパワーメント 障害の理解 介護技術	
《授業の概要》 介護を必要とする方のさまざまな障がいを理解し、自立に向けた支援方法を習得する。また、障がいを持つ人の特徴と生活上の困難を学び、障害の形態に合わせた生活を支えるための介護方法を学ぶ。											
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重する。適切な生活支援技術を用いて潜在能力を引き出し、安全に援助できる技術や知識を習得する。											
《到達目標（具体的行動目標）》 ①さまざまな障がいを理解し、適切な介護技術を選択できる。 ②さまざまな障がいをもつ方が、なじみのある環境で生活していけるための介護技術を習得する。 ③状態の変化に応じ、個別性を考慮した対応ができる介護技術を習得する。											
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等			
①	授業説明 生活支援技術を学ぶ意義							教科書 p2~28、p31~44			
②	利用者の状態・状況の応じた生活支援技術 肢体不自由に応じた介護										
③	聴覚・言語障害に応じた介護・動画鑑賞										
④	聴覚・言語障害に応じた介護・重複障害に応じた介護										
⑤	(内部障害①) 心臓機能障害に応じた介護										
⑥	(内部障害②) 呼吸機能障害に応じた介護										
⑦	(内部障害③) 腎臓機能障害の応じた介護										
⑧	(内部障害④) 膀胱・直腸小腸機能障害に応じた介護										
⑨	(内部障害⑤) 小腸機能障害に応じた介護										
⑩	(内部障害⑥) HIVによる免疫機能障害に応じた介護										
⑪	(内部障害⑦) 肝機能障害に応じた介護										
⑫	重度心身障害に応じた介護										
⑬	重度心身障害に応じた介護、知的障害に応じた介護										
⑭	発達障がいに応じた介護、障がいの特性、発達段階、それぞれの特徴										
⑮	発達障がいに応じた介護、障がいの特性、発達段階、それぞれの特徴										
⑯	精神障害に応じた介護、統合失調症の理解										
⑰	精神障害の応じた介護、気分障害の理解、高次脳機能障害に応じた介護									教科書p196~228	
⑱	高次脳機能障害に応じた介護 適切な介護技術の提供										
⑲	【難病】筋萎縮性側索硬化症(ALS)に応じた介護 支援の展開									教科書 p246~269	
⑳	【難病】パーキンソン病に応じた介護 支援の展開										
㉑	【難病】悪性関節リウマチに応じた介護 支援の展開										
㉒	【難病】筋ジストロフィーに応じた介護 支援の展開										
㉓	認知症の人への介護									教科書p270~298	
㉔	認知症の人への介護										
㉕	認知症の人への介護										
㉖	認知症の人への介護										
㉗	定期試験対策・振り返り										
㉘	定期試験対策・振り返り										
㉙	定期試験返却										
㉚	まとめ										
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	過去問を使用します。 国家試験の対策			
	40%	20%	20%	なし	なし	20%	なし				
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座8 「生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版					参考図書		完全図鑑「新しい介護」講談社 「介護福祉士国試ナビ」※必要時声掛け			
学生へのメッセージ	障がいをかかえている生活を教科書、動画教材から学び、介護福祉士として生活支援技術を考えを深めましょう。					履修上の注意		日々の積み重ねが成績につながります。小テストは行う前に事前に告知します。			
実務経験と当該科目との関連	介護職員(介護福祉士)として介護業務経験を生かし、①さまざまな障がいを理解し、適切な介護技術を選択できる。②さまざまな障がいをもつ方が、なじみのある環境で生活していけるための介護技術を習得する。③状態の変化に応じ、個別性を考慮した対応ができる介護技術を習得する授業を行う。										

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	生活支援技術Ⅳ（アクティビティ・サービス）	演習	30 60	前期	後期	前期	後期	熊谷春枝	-
<p>《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより</p> <p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>《授業の概要》</p> <p>生活を支える具体的な技術を学ぶ前に、その対象となる（生活）とは何かを理解し、（生活）を支えるためにはなにが必要かを把握します。生活を支援するためにはさまざまな視点・アプローチがあることを本章と別資料でも学びます。</p> <p>《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》</p> <p>「アクティビティ・サービス」が生活の豊かさや利用者の心身と生活の活性化を支援することを理解する。介護現場においてより質の高い「アクティビティ・サービス」を提供できる知識を身に付ける。</p> <p>《到達目標（具体的行動目標）》</p> <p>アクティビティ・サービスの定義を理解する。生活支援としてのアクティビティ・サービスを理解する。アクティビティ・サービスが生活の豊かさや利用者の心身と生活の活性化を支援することを理解する。アクティビティ・サービスの計画ができる。</p>								<p>《本教科で重要となるキーワード》</p> <p>生活を理解する アクティビティ・ケア アクティビティ・サービス</p>	
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	オリエンテーション 授業の進め方							プリント「前期で使用する道具」	
②	アクティビティ・サービスの定義								
③	アクティビティ・サービスの言葉の理解 言葉の誤解、セラピーとの違い							小テスト (カレンダー作成)	
④	垣内理論からアクティビティ・サービスへ 生活の快と社会福祉の関係							小テスト	
⑤	アクティビティ・サービスの効果① 心理的側面における効果、生理的側面における効果							吉川駅のバリアフリー研究	
⑥	アクティビティ・サービスの効果② 文化的側面における効果、社会的・物理的側面における効果							小テスト	
⑦	アクティビティ・サービスの対象 すべての人に必要なサービス、日常生活支援の対象者と向き合うには							小テスト	
⑧	生活支援としてのアクティビティ・サービス① 生活支援学とアクティビティ・サービス							小テスト (人形劇説明)	
⑨	生活支援としてのアクティビティ・サービス② 生活支援学の成り立ち							小テスト、前半まとめ (前期試験範囲提示)	
⑩	生活支援としてのアクティビティ・サービス③ 人間科学としての生活支援学							(軍手人形作成)	
⑪	日本におけるアクティビティ・サービスの誕生① 専門職に必要な科目としての「レクリエーション教育」の誕生								
⑫	日本におけるアクティビティ・サービスの誕生② 福祉レクリエーションからアクティビティ・サービスへ							(おしぼり犬作成)	
⑬	アクティビティ・サービスの計画① アクティビティ・サービス計画の基本的な考え方							(定期試験説明)	
⑭	定期試験 アクティビティ・サービスの計画上の留意点							定期試験	
⑮	アクティビティ・サービスの計画② 具体的な立案方法							(後期授業について説明)	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	生活支援技術Ⅰの過去問を解説資料別紙配布
	60%	20%	10%	5%	5%	なし	なし		
使用教科書	新訂 アクティビティ・サービス 心身と生活の活性化を支援する					参考図書	講義の中で随時紹介する		
学生へのメッセージ	介護福祉の教育が地域の場でどのような影響を与えるかを考えながら授業参加してください。					履修上の注意	授業中はディスカッションなどにも参加すること。次回の授業の予習も兼ねるため復習を必ず行うこと。		
実務経験と当該科目との関連									

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	生活支援技術Ⅳ（アクティビティ・サービス）	演習	30 60	前期	後期	前期	後期	熊谷春枝	-
<p>《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより</p> <p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p>								《本教科で重要となるキーワード》	
<p>《授業の概要》</p> <p>生活を支える具体的な技術を学ぶ前に、その対象となる（生活）とは何かを理解し、（生活）を支えるためにはなにが必要かを把握します。生活を支援するためにはさまざまな視点・アプローチがあることを本章と別資料でも学びます。</p>								生活の活性化 アクティビティ・ケア アクティビティ・サービス ICF	
<p>《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》</p> <p>ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解できる。ICFの視点が生活の豊かさや利用者の心身と生活の活性化を支援することを理解する。介護現場においてより質の高い「アクティビティ・サービス」を提供できる知識を身に付ける。</p>									
<p>《到達目標（具体的行動目標）》</p> <p>ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解できる。ICFの視点が生活の豊かさや利用者の心身と生活の活性化を支援することを理解する。アクティビティ・サービスにおけるICFと支援の基本について理解できる。アクティビティ・サービスの実践ができる。</p>									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	アクティビティ・サービスにおけるICFと支援の基本について① ICFの意義と内容								
②	アクティビティ・サービスにおけるICFと支援の基本について② ICFにおける活動・参加とアクティビティ・サービス								
③	アクティビティ・サービスの実践① 日常生活場面でのアクティビティ・サービス								
④	アクティビティ・サービスの実践② 非日常生活場面でのアクティビティ・サービス								
⑤	演習① 特別養護老人ホームにおける個別支援								
⑥	演習② 通所介護の個別支援								
⑦	演習③ 在宅の個別支援（訪問介護）								
⑧	演習④ 介護老人保健施設の行事（集団支援）								
⑨	アクティビティ・サービスの実践③ アクティビティ・サービスと介護過程								
⑩	資料研究① 年中行事、祝日、二十四節気								
⑪	資料研究② 全国の祭り、歴史を分析する								
⑫	資料研究③ 高齢者の生活史、文化史とはやり歌								
⑬	障害者の生活と活動								
⑭	後期定期試験 資格取得のためのレポート指導							後期定期試験	
⑮	アクティビティ・サービスのまとめ 資格取得のためのレポート指導								
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	生活支援技術Ⅰの過去問を解説資料別紙配布
	60%	20%	10%	5%	5%	なし	なし		
使用教科書	新訂 アクティビティ・サービス 心身と生活の活性化を支援する					参考図書	講義の中で随時紹介する		
学生へのメッセージ	介護福祉の教育が地域の場でどのような影響を与えるかを考えながら授業参加してください。					履修上の注意	授業中はディスカッションなどにも参加すること。次回の授業の予習も兼ねるため復習を必ず行うこと。		
実務経験と当該科目との関連									

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	介護過程Ⅰ-①	演習	30 30	前期	後期	前期	後期	池上千恵美	○
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 本人の望む生活に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。				《本教科で重要となるキーワード》 個別ケア アセスメント 情報収集 情報の解釈 関連づけ 統合化 ICF 生活課題 介護計画の立案 介護計画の実施 評価					
《授業の概要》 利用者一人ひとりに応じた個別ケアを提供するために必要な専門知識を活用した客観的で科学的な思考過程を学ぶ。介護過程の意義と目的を理解し、介護過程の展開方法を学ぶ。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 他の関連科目で学んだ介護福祉の知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。									
《到達目標（具体的行動目標）》 1. 介護過程の意義と目的を理解できる。 2. 介護過程の展開を理解できる。 3. 事例を用いた介護過程展開方法の基礎が理解できる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	授業説明 介護過程とは何か。							教科書p2~3	
②	介護過程を理解する準備 他者とかかわることを考える。共通点							他者との共通点を考える。	
③	介護過程を理解する準備 相手の立場になって考える。共感的理解							共感的理解について考える。	
④	介護過程の理解 介護過程の意義 目的							教科書p2~9	
⑤	介護過程の理解 介護過程の全体像							教科書p6~12	
⑥	介護過程の展開 アセスメント 情報収集とICF							教科書p38~45	
⑦	介護過程の展開 アセスメント 情報収集							教科書p38~45	
⑧	介護過程の展開 アセスメント 情報収集							教科書p38~45	
⑨	介護過程の展開 アセスメント 情報の解釈 関連づけ 統合化							教科書p48~55	
⑩	介護過程の展開 アセスメント 情報の解釈 関連づけ 統合化							教科書p38~45	
⑪	介護過程の展開 アセスメント 情報の解釈 関連づけ 統合化							教科書p38~45	
⑫	介護過程の展開 アセスメント 情報の解釈 関連づけ 統合化							教科書p38~45	
⑬	介護過程の展開 アセスメント 生活課題の明確化 生活課題優先順位							教科書p36~58	
⑭	前期試験							これまでの学習内容をまとめる。	
⑮	前期試験解説							試験結果をアセスメントする。	
評価内容・方法	試験	小テスト	介護過程展開	発表	課題提出	授業態度・出席	その他	国家試験の対策	介護過程の意義・目的、介護過程展開に必要な基礎的知識と支援方法を学習する。
	40%	なし	40%	なし	10%	10%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座9（第2版） 「介護過程」 中央法規出版					参考図書	授業の中で随時紹介する。		
学生へのメッセージ	介護過程は課題解決思考を用いるので、自分の考えをまとめ記録する。					履修上の注意	課題の提出期限は守る。		
実務経験と当該科目との関連	介護職員（介護福祉士）としての勤務経験を生かし、「1. 介護過程の意義と目的を理解できる。」「2. 介護過程の展開を理解できる。」「3. 事例を用いた介護過程展開方法の基礎が理解できる」授業を行う。								

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	介護過程Ⅰ-②	演習	60 60	前期	後期	前期	後期	池上千恵美	○
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 本人の望む生活に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。				《本教科で重要となるキーワード》 個別ケア アセスメント 情報収集 情報の解釈 関連づけ 統合化 ICF 生活課題 介護計画の立案 介護計画の実施 評価					
《授業の概要》 利用者一人ひとりに応じた個別ケアを提供するために必要な専門知識を活用した客観的で科学的な思考過程を学ぶ。既習した知識・技術を統合して、事例を通して根拠に基づいた生活課題を明確にし、適切な個別援助計画を立案する。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 他の関連科目で学んだ介護福祉の知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。									
《到達目標（具体的行動目標）》 1. 既習した知識・技術を統合し、多面的にアセスメントできる。 2. 利用者にとって適切な個別援助計画を立案できる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①②	授業説明 前期学習の振り返りをする。 介護を必要とする人の理解 認知症のある人							教科書p2^59 介護を必要とする人について本で調べる	
③④	介護を必要とする人の理解 認知症のある人 身体障害のある人 介護過程の展開 アセスメント (情報収集)(情報の解釈・関連付け・統合化)							介護を必要とする人について本で調べる 教科書p38^55	
⑤⑥	介護過程の展開 アセスメント (情報の解釈・関連付け・統合化)							教科書p38^55	
⑦⑧	介護過程の展開 アセスメント 生活課題の明確化 生活課題優先順位							教科書p55^59	
⑨⑩	介護過程の展開 個別援助計画の意義目的 計画立案 目標 支援内容方法							教科書p65^75	
⑪⑫	介護過程の展開 事例の個別援助計画 個別援助計画を立案する。							教科書p65^75	
⑬⑭	介護過程の展開 事例の個別援助計画 個別援助計画を立案する。							教科書p65^75	
⑮⑯	介護過程の展開 事例の個別援助計画 個別援助計画を立案する。							教科書p65^75	
⑰⑱	介護過程の展開 事例の個別援助計画 個別援助計画を立案する。							教科書p65^75	
⑲⑳	介護過程の展開 事例の個別援助計画 個別援助計画を立案する。							教科書p65^75	
㉑㉒	介護過程の展開 事例の個別援助計画 個別援助計画を立案する。							教科書p65^75	
㉓㉔	介護過程の展開 事例の個別援助計画 個別援助計画を立案する。							教科書p65^75	
㉕㉖	介護過程の展開 事例の個別援助計画 個別援助計画を立案する。							教科書p65^75	
㉗㉘	介護過程の展開 事例の個別援助計画 個別援助計画を立案する。 後期試験							教科書p65^75 これまでの学習内容をまとめる。	
㉙㉚	後期試験解説 介護過程の展開 事例の個別援助計画 個別援助計画を立案する。							試験結果をアセスメントする。 教科書p65^75	
評価内容・方法	試験	小テスト	介護過程展開	発表	課題提出	授業態度・出席	その他	国家試験の対策	
	40%	なし	40%	なし	10%	10%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座9 (第2版) 「介護過程」 中央法規出版						参考図書	授業の中で随時紹介する。	
学生へのメッセージ	介護過程は課題解決思考を用いるので、自分の考えをまとめ記録する。						履修上の注意	課題の提出期限は守る。	
実務経験と当該科目との関連	介護職員（介護福祉士）としての勤務経験を生かし、「1. 介護過程の意義と目的を理解できる。」「2. 介護過程の展開を理解できる。」「3. 事例を用いた介護過程展開方法の基礎が理解できる」授業を行う。								

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	介護過程Ⅱ	演習	60	前期	後期	前期	後期	池上千恵美	○
			60			●			
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 本人の望む生活に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。				《本教科で重要となるキーワード》 個別ケア アセスメント 情報収集 情報の解釈 関連づけ 統合化 ICF 生活課題 介護計画の立案 介護計画の実施 評価					
《授業の概要》 利用者一人ひとりに応じた個別ケアを提供するために必要な専門知識を活用した客観的で科学的な思考過程を学ぶ。既習した知識・技術を統合して、事例を通して根拠に基づいた生活課題を明確にし、適切な個別援助計画の立案、実施、評価について学ぶ。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 他の関連科目で学んだ介護福祉の知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。									
《到達目標（具体的行動目標）》 1. 既習した知識・技術を統合し、多面的にアセスメントできる。 2. 利用者にとって適切な個別援助計画を立案できる。 3. 計画を実施し、実施に基づく評価ができる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①②	授業説明 介護過程とケアマネジメント チームアプローチにおける介護福祉士の役割							教科書p136～157	
③④	介護過程の実践的展開 事例をとおして介護過程の思考過程を学ぶ。							教科書p82～133	
⑤⑥	介護過程の展開 アセスメント 情報の解釈 関連づけ 統合化 課題の明確化 課題優先順位 介護過程の展開 アセスメント 事例Jさん 情報収集～生活課題明確化							教科書p22～58	
⑦⑧	介護過程の展開 アセスメント 事例Jさん 情報収集～生活課題明確化							教科書p22～58	
⑨⑩	介護過程の展開 アセスメント 事例Jさん 情報収集～生活課題明確化							教科書p22～58	
⑪⑫	介護過程の展開 計画立案 事例Jさん 目標設定 支援内容・方法決定							教科書p22～68	
⑬⑭	介護過程の展開 計画立案 事例Jさん 目標設定 支援内容・方法決定							教科書p22～68	
⑮⑯	介護過程の展開 実施 事例Jさん 実施の留意点 評価の留意点							教科書p69～80	
⑰⑱	介護過程の展開 実施・評価 事例Jさん 実施の留意点 評価の留意点							教科書p69～80	
⑲⑳	介護過程の実践的展開 事例を用いた個別援助計画							学習した知識と技術を統合して 個別援助計画を立案する。	
㉑㉒	介護過程の実践的展開 事例を用いた個別援助計画							学習した知識と技術を統合して 個別援助計画を立案する。	
㉓㉔	介護過程の実践的展開 事例を用いた個別援助計画							学習した知識と技術を統合して 個別援助計画を立案する。	
㉕㉖	介護過程の実践的展開 事例を用いた個別援助計画							学習した知識と技術を統合して 個別援助計画を立案する。	
㉗㉘	前期試験 介護過程と課題解決思考 認知症の人の事例を考える。							これまでの学習内容をまとめる。	
㉙㉚	前期試験解説 介護過程と課題解決思考 認知症の人の事例を考える。							試験結果をアセスメントする。 教科書p59～68	
評価内容・方法	試験	小テスト	介護過程展開	発表	課題提出	授業態度・出席	その他	国家試験の対策	
	40%	なし	40%	なし	10%	10%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座9 「介護過程」 中央法規出版					参考図書	授業の中で随時紹介する。		
学生へのメッセージ	介護過程は課題解決思考を用いるので、自分の考えをまとめ記録する。					履修上の注意	課題の提出期限は守る。		

実務経験と当該科目との関連	介護職員（介護福祉士）としての勤務経験を生かし、「1. 介護過程の意義と目的を理解できる。」「2. 介護過程の展開を理解できる。」「3. 事例を用いた介護過程展開方法の基礎が理解できる」授業を行う。
---------------	---

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	介護総合演習Ⅰ	演習	30 60	前期	後期	前期	後期	池上千恵美	○
				《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。					
《授業の概要》 介護総合演習・介護実習の意義と目的を理解したうえで、介護実習Ⅰ-①の事前学習を行い、実習終了後の振り返りを行う。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 実習前に実習施設の理解をして、各科目で学んだ知識と技術を統合し、介護実習につなげる。実習を振り返り、各科目で学んだ知識と技術の統合ができる。									
《到達目標（具体的行動目標）》 介護実習Ⅰ-①の事前学習として、実習関連書類と記入方法を理解し、適切に書類を完成できる。 介護実習Ⅰ-①の目標設定ができる。 介護実習Ⅰ-①終了後の振り返りができる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	授業説明 介護総合演習の位置づけ 介護総合演習・介護実習の学習の進め方							教科書p2 ⁴	
②	介護総合演習の目的 介護実習の意義と目的 介護実習のおもな流れ							教科書p6 ²²	
③	介護実習前の学習の内容と方法 介護実習施設の理解 利用者の理解 実習先での学び							教科書p109 ¹²⁰	
④	介護実習施設の理解 実習施設の特徴 利用者の理解 実習先での学び							教科書p78 ²⁰⁰	
⑤	介護実習施設の理解 実習施設の特徴 利用者の理解 実習先での学び							教科書p78 ²⁰⁰	
⑥	介護実習施設の理解 実習施設の特徴 利用者の理解 実習先での学び							教科書p78 ²⁰⁰	
⑦	介護実習Ⅰ-①の事前準備 介護実習Ⅰ-①の目的と目標 学生自身の介護実習Ⅰ-①の目標							教科書p210 ²¹⁹	
⑧	介護実習Ⅰ-①の事前準備 学生個人票作成 実習計画作成							教科書p43 ⁵⁶	
⑨	介護実習Ⅰ-①事前準備 実習施設概要作成							教科書p43 ⁵⁶	
⑩	介護実習Ⅰ-①事前準備 介護実習施設事前訪問の目的・方法 実習必要書類準備							教科書p48 ⁵⁶	
⑪	介護実習Ⅰ-①事前準備 介護実習記録の意義と目的 介護実習記録作成方法							教科書p51 ⁵⁵	
⑫	介護実習中の学習 介護実習記録作成							教科書p51 ⁵⁵	
⑬	介護実習記録作成 日々の目標設定							教科書p51 ⁵⁵	
⑭	前期試験							これまでの学習内容をまとめる。	
⑮	前期試験解説								
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・出席	実習書類・実習記録	国家試験の対策	
	40%	なし	なし	なし	なし	20%	40%		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座10（第2版） 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版					参考図書	授業の中で随時紹介する。		
学生へのメッセージ	介護実習と連動している科目であるため出席する。					履修上の注意	実習先への提出種類の提出期限を守る。		
実務経験と当該科目との関連	介護職員（介護福祉士）としての勤務経験を生かし、「介護実習Ⅰ-①の事前学習として、実習関連書類と記入方法を理解し、適切に書類を完成できる。」「介護実習Ⅰ-①の目標設定ができる。」「介護実習Ⅰ-①終了後の振り返りができる」授業を行う。								

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験	
				1年		2年				
介護	介護総合演習Ⅰ	演習	30 60	前期	後期	前期	後期	池上千恵美	○	
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。				《本教科で重要となるキーワード》 介護実習 知識と技術の統合化 介護観 実習報告会						
《授業の概要》 介護総合演習・介護実習の意義と目的を理解したうえで、介護実習Ⅰ-②の事前学習を行い、実習終了後の振り返りを行う。										
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 実習前に実習施設の理解をして、各科目で学んだ知識と技術を統合し、介護実習につなげる。実習を振り返り、各科目で学んだ知識と技術の統合ができる。										
《到達目標（具体的行動目標）》 介護実習Ⅰ-②の事前学習として、実習関連書類と記入方法を理解し、適切に書類を完成できる。 介護実習Ⅰ-②の目標設定ができる。 介護実習Ⅰ-②終了後の振り返りができる。										
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等		
①	授業説明 介護実習Ⅰ-①の振り返り 自己評価と客観的評価							教科書p64^75		
②	介護実習Ⅰ-①の報告書作成							教科書p64^75		
③	介護実習Ⅰ-①の報告書作成							教科書p64^75		
④	介護実習Ⅰ-①報告会							教科書p64^75		
⑤	介護実習Ⅰ-①報告会							教科書p64^75		
⑥	介護実習Ⅰ-①報告会							教科書p64^75		
⑦	介護実習Ⅰ-②の事前準備 介護実習Ⅰ-①の目的と目標 学生自身の介護実習Ⅰ-①の目標 実習施設の理解							教科書p222^227		
⑧	介護実習Ⅰ-②の事前準備 学生個人票作成 実習計画作成 実習施設概要作成							教科書p43^48		
⑨	介護実習Ⅰ-②の事前準備 介護実習施設事前訪問の目的・方法							教科書p48^50		
⑩	介護実習記録の意義と目的 方法 留意点 日々の目標設定 介護実習記録方法							教科書p51^52		
⑪	介護実習記録作成 日々の目標設定 介護実習記録方法							教科書p51^52		
⑫	介護実習記録作成 日々の目標設定 介護実習記録方法							教科書p51^52		
⑬	介護実習Ⅰ-②の事前準備 介護実習に必要な書類の準備 実習に関する留意点 健康管理 実習におけるスーパービジョン							教科書p57^63		
⑭	後期試験							これまでの学習内容をまとめる。		
⑮	後期試験解説									
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度 ・出席	実習書類 ・実習記録	国家試験の対策		
	40%	なし	なし	10%	なし	10%	40%			
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座10（第2版） 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版					参考図書	授業の中で随時紹介する。			
学生へのメッセージ	介護実習と連動している科目であるため出席する。					履修上の注意	実習先への提出種類の提出期限を守る。			

実務経験と当該科目との関連	
---------------	--

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	介護総合演習Ⅱ	演習	30 30	前期	後期	前期	後期	池上千恵美	○
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。				《本教科で重要となるキーワード》 介護実習 知識と技術の統合化 介護観 訪問介護 夜間介護					
《授業の概要》 介護総合演習・介護実習の意義と目的を理解したうえで、介護実習Ⅰ-③、介護実習Ⅱの事前学習を行い、実習終了後の振り返りを行う。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 実習前に実習施設の理解をして、各科目で学んだ知識と技術を統合し、介護実習につなげる。実習を振り返り、各科目で学んだ知識と技術の統合ができる。									
《到達目標（具体的行動目標）》 介護実習Ⅰ-②、介護実習Ⅱの事前学習として、実習関連書類と記入方法を理解し、適切に書類を完成できる。 介護実習Ⅰ-②、介護実習Ⅱの目標設定ができる。 介護実習Ⅰ-③、介護実習Ⅱ終了後の振り返りができる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	授業説明 介護実習Ⅰ-②の振り返り 介護実習Ⅰ-②報告書作成							教科書p60~71	
②	介護実習Ⅰ-②の報告書作成							教科書p60~71	
③	介護実習Ⅰ-②の実習報告会							教科書p60~71	
④	介護実習Ⅰ-②の実習報告会							教科書p60~71	
⑤	介護実習Ⅰ-②の実習報告会							教科書p60~71	
⑥	介護実習Ⅰ-③の展開 介護実習Ⅰ-③の意義と目的 訪問介護の特徴 実習先での学び							教科書p206~227 p74~85	
⑦	介護実習Ⅱの展開 介護実習Ⅱの意義と目的 夜間介護							教科書p232~243 p28~30	
⑧	介護実習Ⅱの展開 実習目標設定 学生自身の介護実習Ⅱの目標 学生個人票作成							教科書p232~243 p28~30	
⑨	介護実習Ⅱの事前準備 実習施設概要記録方法・作成							教科書p43~52教科書p43~52	
⑩	介護実習Ⅰ-③ 介護実習に必要な書類準備 実習目標設定 学生個人票作成 訪問介護事業所作成 訪問介護自習記録方法・作成練習							教科書p43~52	
⑪	介護実習中の学習の内容及方法 実習中の態度 目標 観察と考察 報告・連絡・相談 事故や不測事態の対応							教科書p53~59	
⑫	介護実習Ⅱの記録 介護実習記録の意義と目的 方法 留意点 日々の目標設定 介護実習記録方法							教科書p47~52	
⑬	介護実習Ⅱ記録作成練習							教科書p47~52	
⑭	前期試験							これまでの学習内容をまとめる。	
⑮	前期試験解説							試験結果をアセスメントする。	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・出席	実習書類・実習記録	国家試験の対策	
	40%	なし	なし	10%	なし	10%	40%		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版					参考図書	授業の中で随時紹介する。		
学生へのメッセージ	介護実習と連動している科目であるため出席する。					履修上の注意	実習先への提出種類の提出期限を守る。		
実務経験と当該科目との関連	介護職員（介護福祉士）としての勤務経験を生かし、「介護実習Ⅰ-②終了後の振り返りができる。」「介護実習Ⅰ-③介護実習Ⅱの事前学習として、実習関連書類と記入方法を理解し、適切に書類を完成できる。」「介護実習Ⅰ-③介護実習Ⅱの目標設定ができる。」「介護実習Ⅰ-③介護実習Ⅱ終了後の振り返りができる」授業を行う。								

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	介護総合演習Ⅲ（卒業研究）	演習	30 30	前期	後期	前期	後期	池上千恵美	○
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。								《本教科で重要となるキーワード》 介護実習 知識と技術の統合化 介護観 介護事例研究	
《授業の概要》 介護実習Ⅱで実施した個別援助計画を介護事例研究としてまとめ、発表する。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 介護事例研究を行い、研究の意義とその方法について理解する。 介護事例研究は質の高い介護実践とエビデンス構築につながることを理解する。									
《到達目標（具体的行動目標）》 介護事例研究をまとめ発表できる。これまでの介護実習、学内での学びから介護観を形成できる									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	授業説明 介護実習Ⅱの振り返り 卒業研究としての介護事例研究の説明 研究の意義と目的・方法							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。	
②	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。	
③	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。	
④	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。	
⑤	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。	
⑥	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。	
⑦	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。	
⑧	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。	
⑨	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。	
⑩	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。	
⑪	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。	
⑫	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。	
⑬	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。	
⑭	介護事例研究 介護実習Ⅱの個別援助計画を事例研究としてまとめる。							介護事例研究に必要な文献を探す。研究論文書式に従いまとめる。	
⑮	卒業研究発表会練習							卒業研究発表の練習をする。	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・出席	研究論文	国家試験の対策	
	なし	なし	なし	20%	なし	20%	60%		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版					参考図書	授業の中で随時紹介する。		
学生へのメッセージ	介護実習Ⅱの個別援助計画を振り返り自分の考えをまとめる。					履修上の注意	研究論文の提出期限を守る。		
実務経験と当該科目との関連	介護職員（介護福祉士）としての勤務経験を生かし、介護実習Ⅱ終了後の振り返りができる授業を行う。								

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	介護実習Ⅰ-①	実習	80 80	前期	後期	前期	後期	池上千恵美 中島裕子 鯉沼聡美	○
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 1. 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 2. 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。							《本教科で重要となるキーワード》 実習目標 施設実習 訪問介護実習 実習記録 利用者 家族 多職種協働・連携		
《授業の概要》 介護実習Ⅰ-①では、利用者の暮らしの場を知り、介護サービスを利用している様々な人と出会う実習とする。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、生活支援技術（介護技術）の確認等を行う。									
《到達目標（具体的行動目標）》 1. 介護サービスを利用している人たちがどのようなところで、どのような暮らしをしているのか理解する。 2. どのような専門職が利用者を支えているのかを理解する。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
	介護実習Ⅰ-①は次の目標をもち、実習形式で1年生前期に10日間行う。 1. 利用者の暮らしの場が理解できる。 2. 介護サービスの利用者に出会うことができる。 ①利用者のイメージ転換を図る。 ②利用者の個別性を理解する。 3. 生活支援の場を知ることができる。 ①日常生活における基本的な生活支援技術を学ぶ。 ②多職種協働を理解する。 4. コミュニケーションの大切さを知ることができる。								
評価内容・方法	介護実習評価と指導における総合評価					国家試験の対策			
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座10（第2版） 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版			参考図書	授業の中で随時紹介する。				
学生へのメッセージ	健康管理に努め実習目標達成に向けて取り組む。			履修上の注意	10日間（80時間）の実習を行う。				
実務経験と当該科目との関連	実務経験者としての経験を生かし、介護実習Ⅰ-①では、利用者の暮らしの場を知り、介護サービスを利用している様々な人と出会う実習とする。								

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	介護実習Ⅰ－②	実習	152	前期	後期	前期	後期	池上千恵美 中島裕子 鯉沼聡美	○
						152			
<p>《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより</p> <p>1. 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。</p> <p>2. 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。</p>								<p>《本教科で重要となるキーワード》</p> <p>実習目標 施設実習 訪問介護実習 実習記録 利用者 家族 多職種協働・連携 介護過程 個別援助計画</p>	
<p>《授業の概要》</p> <p>介護実習Ⅰ－②では、基本的な介護技術を実践しながら、介護実習Ⅱの介護過程につなげる実習とする。</p>									
<p>《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》</p> <p>利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、生活支援技術（介護技術）の確認等を行う。</p>									
<p>《到達目標（具体的行動目標）》</p> <p>1. それぞれの暮らしの場でこの利用者の心身の状況に応じた基本的な介護技術の実践をする。</p> <p>2. 個別援助計画を立案する。</p>									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
	<p>介護実習Ⅰ－②は次の目標をもち、実習形式で1年生後期に19日間行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の状態像(高齢者・障害者・認知症のある人)を観察することができる。 2. 利用者の生活の不自由さを理解することができる。 3. 安全性と快適性に配慮した基本的な生活支援技術を実践することができる。 4. 対人関係を意識したコミュニケーションをとることができる。 5. 個別援助計画を立案することができる。 								
評価内容・方法	介護実習評価と指導における総合評価					国家試験の対策			
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座10（第2版） 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版			参考図書	授業の中で随時紹介する。				
学生へのメッセージ	健康管理に努め実習目標達成に向けて取り組む。			履修上の注意	19日間（152時間）の実習を行う。				
実務経験と当該科目との関連	実務経験者としての経験を生かし、介護実習Ⅰ－②では、基本的な介護技術を実践しながら、介護実習Ⅱの介護過程につなげる実習とする。								

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	介護実習Ⅰ-③	実習	32 32	前期	後期	前期	後期	池上千恵美 中島裕子 鯉沼聡美	○
				《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 1. 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 2. 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。					
《授業の概要》 介護実習Ⅰ-③では、利用者が地域で生活していくための支援体制を理解する実習とする。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、生活支援技術（介護技術）の確認等を行う。									
《到達目標（具体的行動目標）》 1. 利用者を取り巻く家族や地域との関係に注目できる。 2. 利用者を取り巻く社会の支援体制が理解できる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
	介護実習Ⅰ-③は次の目標をもち、実習形式で2年生前期に、訪問介護事業所において4日間行う。 1. 利用者とその家族の生活状況を理解できる。 2. 居宅サービス計画に基づいた訪問介護サービスであることを理解できる。 3. 利用者に関わっている多職種の役割を理解できる。 4. 訪問介護における介護福祉士の役割を理解できる。								
評価内容・方法	介護実習評価と指導における総合評価					国家試験の対策			
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版			参考図書	授業の中で随時紹介する。				
学生へのメッセージ	健康管理に努め実習目標達成に向けて取り組む。			履修上の注意	4日間（32時間）の実習を行う。				
実務経験と当該科目との関連	実務経験者としての経験を生かし、介護実習Ⅰ-③では、利用者が地域で生活していくための支援体制を理解する実習とする。								

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
介護	介護実習Ⅱ	実習	192 192	前期	後期	前期	後期	池上千恵美 中島裕子 鯉沼聡美	○
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 1. 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 2. 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。							《本教科で重要となるキーワード》 実習目標 施設実習 訪問介護実習 実習記録 利用者 家族 多職種協働・連携 介護過程 個別援助計画		
《授業の概要》 介護実習Ⅱでは、介護実習Ⅰでの体験を踏まえながら、コミュニケーション技術や生活支援技術（介護技術）を用いて介護過程の展開を行う。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 一つの実習施設や事業所において、一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価や、これを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践する。									
《到達目標（具体的行動目標）》 1. 介護過程を展開できる。 2. 個別ケアの意味を考え実践できる。 3. 多職種協働・連携の重要性を理解できる。 4. 生活支援は介護過程に基づいた専門的、計画的なものであることを理解できる。									
授業回数	授業計画						授業外学習及び準備等		
	介護実習Ⅱは次の目標をもち、実習形式で2年生前期に24日間行う。 1. 介護過程を展開できる。 ①観察、コミュニケーション、記録類を通して介護に必要な情報が収集できる。 ②一つ一つの情報のもつ意味を理解し、情報同士の関連付けができる。 ③利用者にとっての優先度を考え、生活課題が明確にできる。 ④利用者や多職種とともに介護計画が立案できる。 ⑤利用者の安全性、快適さ、自立に配慮した介護が実践できる。 ⑥介護目標が達成できたかの評価ができる。 ⑦具体的な援助内容が適切であったのかを評価できる。 ⑧計画を修正する必要があるかの判断ができる。 2. 個別ケアの意味を考え実践できる。 3. カンファレンスを通じて多職種協働・連携の重要性を理解できる。 4. 夜勤介護を体験し、24時間を通しての利用者支援の実際を理解する。								
評価内容・方法	介護実習評価と指導における総合評価				国家試験の対策				
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版			参考図書	授業の中で随時紹介する。				
学生へのメッセージ	健康管理に努め実習目標達成に向けて取り組む。			履修上の注意	24日間（192時間）の実習を行う。				
実務経験と当該科目との関連	実務経験者としての経験を生かし、「1. 介護過程を展開できる。」「2. 個別ケアの意味を考え実践できる。」「3. 職種協働・連携の重要性を理解できる。」「4. 生活支援は介護過程に基づいた専門的、計画的なものであることを理解できる」ことを理解及び習得させる。								

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ	講義	60 60	前期	後期	前期	後期	竹内麻貴	-
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。							《本教科で重要となるキーワード》 ・健康の定義 ・こころのしくみ・定義 ・人体の各部位の名称、機能 ・死の定義 ・家族ケア		
《授業の概要》 ・人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。 ・健康の概念を考えさせながら説明する。 ・こころのしくみを再認識させ具体的に理解できるように説明する。 ・からだの構造と機能について図や体験などを取り入れて理解できるように説明する。 ・グループワークやDVDを通して終末期や死についての介護および家族ケアを考える学習を行う。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 身体の構造と仕組みの理解を深め、介護に必要な基本的知識を養う。疾患や障害が及ぼす生活への影響を理解し心理的社会的な知識を養う。こころとからだの相互関係を理解し、本人および家族支援に考慮する力をつける。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ・健康の概念を理解することができる。 ・こころのしくみを理解することができる。 ・からだの構造と機能について理解することができる。（脳神経系、呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、骨格系など） ・終末期や死についての介護および家族ケアを考えることができる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	科目概要・シラバスや授業運営についてオリエンテーション・自己紹介							シラバス確認	
②	健康について ・定義 ・ホメオスタシス							※毎回、教科書、ノート持参	
③	こころのしくみの基礎 ①人間の欲求と自己実現							第1章2節・予習	
④	こころのしくみの基礎 ② こころとは何か・脳のしくみ							第1章3節・予習	
⑤	こころのしくみの基礎 ③ 感情・記憶・学習等							小テスト	
⑥	こころのしくみの基礎 ④ 認知・適応のしくみ							第1章3節・予習	
⑦	こころのしくみの基礎 ⑤こころのしくみのまとめ							小テスト/第1章3節・予習	
⑧	こころのしくみの基礎 ⑥こころのしくみのまとめ							小テスト/第1章・復習	
⑨	心身の調和について ・遺伝・脳・神経							脳のしくみを復習/第2章1節・予習	
⑩	からだのしくみの理解 ① 人体の構造・骨格系～骨格・筋・関節							小テスト	
⑪	からだのしくみの理解 ② 人体の構造・骨格系～骨格・筋・関節							第2章p60～67・予習	
⑫	からだのしくみの理解 ③ 感覚器について～眼、耳、嗅覚、味覚、皮膚等							小テスト/p46～49・予習	
⑬	からだのしくみの理解 ④ 感覚器について～眼、耳、嗅覚、味覚、皮膚等							p46～49 予習	
⑭	からだのしくみの理解 ⑤ 呼吸器系について～肺・呼吸のしくみ・呼吸器疾患							小テスト/p52～54・予習	
⑮	からだのしくみの理解 ⑥ 呼吸器系について～肺・呼吸のしくみ・呼吸器疾患							小テスト/p52～54・予習	
⑯	からだのしくみの理解 ⑦ 消化器系について～口から肛門までの各臓器のしくみと疾患							小テスト/p55～57・予習	
⑰	からだのしくみの理解 ⑧ 消化器系について～口から肛門までの各臓器のしくみと疾患							p55～57 予習	
⑱	からだのしくみの理解 ⑨ 泌尿器系について～各臓器および排尿のしくみと疾患							小テスト/p58～59・予習	
⑲	からだのしくみの理解 ⑩ 泌尿器系について～各臓器および排尿のしくみと疾患							p58～59・予習	
⑳	からだのしくみの理解 ⑪ 生殖器と内分泌（ホルモン）について							小テスト/p70～75・予習	
㉑	からだのしくみの理解 ⑫ 循環器・血管系について～心臓・血液・リンパ							小テスト/p53～55・予習	
㉒	からだのしくみの理解 ⑬ 循環器・血管系について～心臓・血液・リンパ							p75～77・予習	
㉓	死にゆく人に関連したしくみ ① 死の理解、終末期から「死」までの変化と特徴							小テスト/第9章1～3節・予習	
㉔	死にゆく人に関連したしくみ ② 死の理解、終末期から「死」までの変化と特徴							第9章1～3節・予習	
㉕	死にゆく人に関連したしくみ ③死の理解、終末期から「死」までの変化と特徴							第9章1～3節・予習	
㉖	死にゆく人に関連したしくみ ④ 家族のケア、医療職と介護職との役割と連携							第9章4節・予習	
㉗	死にゆく人に関連したしくみ ⑤ 家族のケア、医療職と介護職との役割と連携							第9章4節・予習	
㉘	死にゆく人に関連したしくみ ⑥ 家族のケア、医療職と介護職との役割と連携							第9章4節・予習	
㉙	考査・定期試験							定期試験の自己採点・全内容からの疑問点抽出	
㉚	総まとめ・定期試験解説							全内容のふりかえり	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	
	80%	5%	評価なし	5%	5%	5%	評価なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座11（第2版）こころとからだのしくみ（中央法規出版）					参考図書	必用に応じて資料配布、DVD鑑賞を行います。		
学生へのメッセージ	学習内容は暗記が多いです。講義形態はただ覚えるだけではなく、グループディスカッションや発表形式なども取り入れて行います。					履修上の注意	講義予定変更、小テストなどは事前にインフォメーションします。		
実務経験と当該科目との関連									

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅡ	講義	30 30	前期	後期	前期	後期	直嶋美恵子	-
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。				《本教科で重要となるキーワード》 統合失調症、感情障害、不安障害 神経発達障害、高次脳機能障害 依存症 神経症 人格障害					
《授業の概要》 精神疾患を持つ人は近年増加している。精神疾患を学ぶことを通して、このような人たちへの共感、理解を深める。また、精神疾患をもつ人々への支援方法についても学ぶ。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 介護福祉士に必要な精神疾患の原因、症状、治療などの基礎的な知識を身につける。基礎知識を踏まえて精神疾患のある人への理解ができる。									
統合失調症、躁うつ病、不安障害、神経発達障害、高次脳機能障害、依存症等について、病気の理解や対応など、実際の介護現場で役立つよう、疾患のイメージをつかめるようになる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	オリエンテーション。統合失調症1：総論（病気の概要、治療の全容など）							統合失調症について自分の考えをまとめておく	
②	統合失調症2：各論（事例を用いた対応方法やコミュニケーションについて）							支援について考えてみる	
③	うつ病：うつ病といわゆる現代型うつ病について理解する							うつ病について自分の考えをまとめておく	
④	双極性障害と気分変調症：躁状態とうつ状態を繰り返す疾患について理解する							気分変調症について支援を考えてみる	
⑤	神経症1：総論、①身体表現性障害について理解する							神経症について調べる	
⑥	神経症2：②PTSD ③適応障害について理解する							神経症の支援について調べる	
⑦	神経症3：④解離性障害 ⑤パニック障害について理解する							神経症の支援について調べる	
⑧	依存症1：⑥アルコール依存症について理解する							依存症について調べる	
⑨	依存症2：⑦薬物依存症 ⑧その他の依存症について理解する							依存症の問題点と支援について考えてみる	
⑩	神経発達障害1：総論、①知的障害 ②高次脳機能障害について理解する							神経発達障害について調べる	
⑪	神経発達障害2：③学習障害 ④ADHA（注意欠陥／多動性障害）について理解する							神経発達障害の支援について考えてみる	
⑫	神経発達障害3：⑤広汎性発達障害（カナー症候群、アスペルガー症候群）について理解する							神経発達障害の支援について考えてみる	
⑬	人格障害について理解する							人格障害について調べる	
⑭	考査								
⑮	考査解説、その他の精神疾患など							精神障害者への支援について考えてみる	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	
	60%	10%	10%	なし	なし	20%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座11 「こころとからだのしくみ」中央法規出版					参考図書			
学生へのメッセージ	毎回授業内容を板書をします。書くことと、見やすいノートを作ることは記録の練習になると思います。					履修上の注意	積極的に授業に参加してください。		
実務経験と当該科目との関連									

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅢ	講義	30 30	前期	後期	前期	後期	中島裕子	○
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。								《本教科で重要となるキーワード》 身じたく 移動 食事 入浴・清潔保持 排泄 睡眠 変化 気づき 連携 自立	
《授業の概要》 こころとからだのしくみの基礎的な知識をもとに、移動、身じたく、食事、排せつ、休息・睡眠等の生活場面ごとに、心身の機能の低下や障害が生活に及ぼす影響、変化に対する観察のポイント、医療職との連携のポイントを学ぶため、「なぜ」「なにが」「どうなったから」「どうする」の流れで授業を進める。受け身ではなく、自ら気づきケアの実践ができるよう考える授業の展開をしていく。介護現場での事例なども授業内で紹介していく。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 生活機能に関連したこころとからだのしくみを理解したうえで、心身機能の低下や障害が及ぼす影響と対応について、根拠をもち、「自立支援」「介護予防」の視点をもった考え方、およびケアを考えることができる。ケアの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について習得する。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ①こころとからだのしくみの基礎知識を根拠として具体的なケアと結び付けて考えることができる。 ②こころとからだのしくみの基礎知識を根拠として利用者を観察し、変化に気づき、医療職等と連携することができる。 ③こころとからだのしくみの基礎知識を根拠として利用者の心身機能の低下や障害を理解することで自立支援の視点をもったケアを考えることができる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	授業説明（授業の概要、進め方、評価基準等） 身じたくに関連したしくみ①							こころとからだのしくみⅠの学習内容の復習	
②	身じたくに関連したしくみ②								
③	移動に関連したしくみ①							小テスト	
④	移動に関連したしくみ②								
⑤	移動に関連したしくみ③							小テスト	
⑥	食事に関連したしくみ①								
⑦	食事に関連したしくみ②								
⑧	食事に関連したしくみ③							小テスト	
⑨	入浴・清潔保持に関連したしくみ①								
⑩	入浴・清潔保持に関連したしくみ②							小テスト	
⑪	排せつに関連したしくみ①								
⑫	排せつに関連したしくみ②								
⑬	睡眠に関連したしくみ							小テスト	
⑭	定期試験								
⑮	定期試験の振り返り								
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	小テスト、練習問題を実施します。過去問題やワークブック等で復習をしましょう。
	70%	10%	なし	なし	10%	10%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座11 「こころとからだのしくみ」中央法規出版					参考図書	授業内で随時案内します。		
学生へのメッセージ	こころとからだⅠで学んだ内容が基礎となるので、結びつけて考えられるとよいです。また、自分の行うケアの根拠となる授業です。根拠を身に着けることは、気づくことができる、ケアに「チカラ」を与えます。					履修上の注意	生活支援技術Ⅱ、生活支援技術Ⅲとの関連がある科目です関連付けてまなびましょう。配布された資料はファイル等にまとめましょう。		
実務経験と当該科目との関連	看護師としての病院・看護専門学校での実務経験を生かし、医療職との連携のポイントを学びながら、こころとからだのしくみの基礎知識を根拠とした「自立支援」「介護予防」の視点を持った考え方及びケアができる授業を行う。								

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験	
				1年		2年				
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	演習	30 60	前期 ●	後期	前期	後期	中島裕子	○	
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を理解する学習とする。				《本教科で重要となるキーワード》					<ul style="list-style-type: none"> 発達段階 発達理論 生涯発達 高齢者の多様性 	
《授業の概要》 ・人が生まれてから死に至るまでの発達段階における課題や特徴を踏まえ、老化に伴う身体的、心理的变化について学習する。また、老化に伴う心身機能の変化が、高齢者の心理や日常生活にどのような影響を及ぼすのかを考えていく。										
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 ・人間の成長と発達の観点から人の一生についての知識を習得することにより、ケアを必要とする人の理解が深まる。 ・老化に伴う心身機能の変化がどのように日常生活に影響を与えるのかを理解することにより、個人を尊重した支援につながる。										
《到達目標（具体的行動目標）》 ・人間の発達段階における一般的特徴を説明できる。 ・生涯発達の考え方を説明できる。 ・身体的、心理的、社会的状況が相互に影響して個人が存在していることを説明できる。										
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等		
①	自己紹介（肩書ワーク） 介護×〇〇〇 介護の仕事							自身の長所、 介護のイメージを考えておく		
②	成長と発達・生涯発達の考え方							教科書P.2～16		
③	発達理論							教科書P.20～34・P.47～52		
④	発達にともなう特徴的な疾病や障害							教科書P.39～46		
⑤	発達段階における社会性の発達 愛着の発達							教科書P.55～65		
⑥	老年期の定義 老化とは							教科書P.70～79		
⑦	高齢者体験							レポート提出		
⑧	人格と尊厳・老いの価値							教科書P.80～93		
⑨	セクシュアリティ							教科書P.93～97		
⑩	記憶機能の変化と心理的影響							教科書P.147～155		
⑪	老化と動機づけ 適応							教科書P.155～161 試験範囲伝達		
⑫	社会の中での生活上の課題（介護問題）							教科書P.164～183		
⑬	社会からみた老年期							⑥～⑫を復習しておく		
⑭	前期試験									
⑮	高齢者介護の実際・まとめ							I-①実習を振り返る		
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	誰がどんな発達段階説を唱えたのかを区別して覚えておく。	
	70%	10%	なし	なし	10%	10%	なし			
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座12（第2版） 「発達と老化の理解」中央法規出版					参考図書	授業の中で適宜紹介していく。			
学生へのメッセージ	医学的な話が中心で難しいと感じるかもしれませんが、実習中に会った利用者を思い浮かべて取り組むと理解しやすいです。					履修上の注意	配布資料は、ファイリングすること。			
実務経験と当該科目との関連	看護師としての病院・看護専門学校での実務経験を生かし、人間の成長と発達について説明ができ、個人の存在について身体的・心理的・社会的状況が影響していることが説明できる授業を行う。									

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	演習	30 60	前期	後期	前期	後期	中島裕子	○
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を理解する学習とする。								《本教科で重要となるキーワード》 ・健康寿命 ・サクセスフルエイジング ・高齢者特有の症候	
《授業の概要》 ・老年期にある人々を広い視野で捉えると共に、医学的側面からの実態にも迫る。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 ・老化にともなう身体的変化が与える生活への影響を理解できる。 ・高齢者に多い疾患の原因や症状を理解できる。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ・高齢者が持つ心身の特徴が説明できる。 ・さまざまな症状が日常生活へどのように影響するのかを説明できる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	健康長寿に向けての健康 健康寿命							教科書P.188～P.195	
②	高齢者の症状と疾患の特徴							教科書P.196～P.201	
③	目の疾患 耳の疾患							教科書P.223～P.226	
④	高齢者に多い骨折 骨粗鬆症							教科書P.202～P.208	
⑤	変形性関節症 リウマチ							教科書P.208～P.216	
⑥	歯・口腔疾患							教科書P.259～P.266	
⑦	パーキンソン病							教科書P.217～P.219	
⑧	脳血管疾患							教科書P.220～P.223	
⑨	心臓疾患							教科書P.228～P.234	
⑩	糖尿病							教科書P.251～P.254	
⑪	腎・泌尿器系疾患							教科書P.246～P.251	
⑫	呼吸器系疾患							教科書P.236～P.241	
⑬	認知症							認知症に関する記事を読んでおく	
⑭	後期試験								
⑮	総まとめ 介護福祉士の仕事							入学当初と現在の介護福祉士像の変化を考えておく	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	過去問を何度も繰り返し解くこと。
	70%	10%	なし	なし	10%	10%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座12（第2版） 「発達と老化の理解」中央法規出版					参考図書	授業の中で適宜紹介していく。		
学生へのメッセージ	医学的な話が中心で難しいと感じるかもしれませんが、実習中に出会った利用者を思い浮かべて取り組むと理解しやすいです。					履修上の注意	配布資料は、ファイリングすること。		
実務経験と当該科目との関連									

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
こころとからだのしくみ	認知症の理解	演習	30 60	前期	後期	前期	後期	大澤町子	○
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。				《本教科で重要となるキーワード》 認知症とは何かをしっかりと理解する。認知症の症状（中核症状・BPSD）原因疾患。当事者の思いや視点の理解。					
《授業の概要》 認知症とはなにか。脳の仕組み脳の構造機能と症状の関係、認知症の人の心理を理解できる。認知症の症状（中核症状、BPSD）の理解、認知症の原因疾患と症状・生活障害、治療薬、認知症予防について学習する。認知症を取り巻く状況や認知症ケアの理念と視点について理解し、認知症当事者の視点から認知症の人の思いを理解する。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 認知症とはなにか。脳の仕組み脳の構造機能と症状の関係、認知症の人の心理を理解できる。認知症の症状（中核症状、BPSD）の理解、認知症の原因疾患と症状・生活障害、治療薬、認知症予防について学習する。認知症を取り巻く状況や認知症ケアの理念と視点について理解し、認知症当事者の視点から認知症の人の思いを理解する。									
《到達目標（具体的行動目標）》 脳の仕組みや脳の構造と症状の関係、認知症の人の心理を理解して、それを説明することが出来る。認知症の中核症状・生活障害・BPSDの理解を学習できて、それについて説明をすることが出来る。認知症の診断と重症度、原因疾患と治療薬について知識を持つことができ、認知症の予防の重要度が理解できる。認知症を取り巻く状況や認知症ケアの理念と視点について理解し、特に認知症当事者の思いや視点を十分に理解して、それを説明できるようになる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	オリエンテーション、認知症のある高齢者の現状と今後。認知症とは何か。認知症の定義と診断基準、初期に生じる生活障害、症状の全体像、特徴							P2～P13通読	
②	脳のしくみ。脳の構造・機能、認知症の病理、アルツハイマー型認知症の進行は発達を逆行。							P14～P20通読	
③	脳の構造と症状との関係、意識障害出ないことの意味、うつとアパシーの理解老化と認知症の関係 認知症の人の心理(認知症当事者の事例)、(レポート作成)							P20～P31通読	
④	認知症の症状・診断・治療・予防。中核症状の理解、生活障害の理解							P34～P48通読	
⑤	BPSDの理解 BPSDの定義、BPSDの要因(背景因子)、BPSDの誘因							P49～P56通読	
⑥	BPSDの理解 主要なBPSD、BPSDの評価尺度							P57～P64通読	
⑦	認知症の診断と重症度							P65～P77通読	
⑧	認知症の原因疾患と症状・生活障害							P78～P95通読	
⑨	認知症の治療薬 認知症の予防							P96～P107通読	
⑩	認知症の予防 認知症予防運動 認知症を防ぐ食生活							コグニサイズ(グループワーク) P110～P120通読	
⑪	認知症を取り巻く状況 これまで—今—これから 認知症ケアの理念と視点							P121～P135通読	
⑫	認知症当事者の視点から見えるもの(DVD視聴クリスティーンブライデン講演より)							P136～P152 (レポート作成)	
⑬	前期総復習(重要事項の確認)							P2～P156通読	
⑭	定期試験実施							前期試験	
⑮	試験答案返し、解説・後期に向けて							解答・解説のレジュメ	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	
	60%	評価しない	10%	評価しない	評価しない	30%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座13(第2版) 「認知症の理解」中央法規出版					参考図書	介護福祉士国試ナビ		
学生へのメッセージ	豊かな知識と確かな技術、クールヘッドと熱いハート、笑顔を忘れずに利用者の生きる意欲を引き出せるような介護職を目指しましょう					履修上の注意			

実務経験と当該科目との関連 介護職員(介護福祉士)及び介護支援専門員としての勤務経験を生かし、老人福祉法が成立した背景を理解して、制定後の介護に関連する施策を理解出来て、説明することが出来る。介護福祉の理念である尊厳を支える介護に関わるノーマライゼーション、QOL、自立を支える介護に関する自己決定や利用者主体についてよく理解し説明できる。介護福祉士の活動の場と役割、「社会福祉士及び介護福祉士法」について理解出来て、詳しく説明することが出来る授業を行う。

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
こころとからだのしくみ	認知症の理解	演習	30 60	前期	後期	前期	後期	大澤町子	○
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に捉え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。								《本教科で重要となるキーワード》 「パーソン・センタード・ケア」 認知症アセスメント・センター方式。 ユニマチュードなどのさまざまなアプローチ。	
《授業の概要》 認知症ケアの目指すところは「認知症の人が笑顔で楽しく生きられる」だけでなく「家族介護者や施設介護者、介護支援専門員（ケアマネージャー）など支援する人々が笑顔で生きられること」です。そのためには、正しい知識を身に付けることが必要です。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 認知症ケアの理念で最も世界的に知られている「パーソン・センタード・ケア」を理解し。認知症の人の心理的ニーズを理解する。認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツリーを学習する。認知症の人とのコミュニケーションの基本的な事柄や留意点について理解できる。具体的な認知症の人へのケア方法（ユニマチュード、バリデーション等）を習得する。終末期医療と介護について理解する。介護者支援、介護福祉職への支援、認知症の人への地域支援についても学習して理解できる。									
《到達目標（具体的行動目標）》 「パーソン・センタード・ケア」について理解出来る説明できる。認知症の人の心理的ニーズを理解して、認知症の人の特性をふまえたアセスメント・シートを学習して習熟出来る、実際に活用できる。具体的な認知症の人のケア方法を身に付けて、それを説明することが出来る。認知症の終末期医療と介護法歩を理解し説明できる。介護者支援、介護福祉職への支援、認知症の人への地域支援、制度、サービス、機関、地域づくり、多職種連携や協働についても理解し説明できる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	認知症ケアの実際、パーソン・センタード・ケア							P154～P163通読	
②	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール 認知症の人を理解するためにセンター方式、ひもときシート、健康状態アセスメント							P164～P190通読	
③	認知症の人とのコミュニケーション							P191～P196通読	
④	認知症の人へのケア（食事、排泄、入浴、清潔保持、休息と睡眠のケア）							P197～P216通読	
⑤	認知症の人へのケア（活動・生きがいのケア、BPSDのケア）							P216～P224通読	
⑥	認知症の人へのさまざまなアプローチ（ユニマチュード、バリデーション）							P225～P232通読 DVD視聴 レポート作成	
⑦	その他の各種アプローチ（リアリティオリエンテーション、回想法、音楽療法と芸術療法）							P232～P237通読	
⑧	認知症の人の終末期医療と介護 環境づくり							P239～P261通読	
⑨	介護者支援 家族への支援							P264～P281通読	
⑩	介護者支援 介護福祉職への支援							P282～P296通読	
⑪	認知症の人の地域生活支援 地域包括ケアシステムにおける認知症ケア、若年性認知症の人実際 DVD視聴							P300～P312通読	
⑫	認知症の人の地域生活支援 多職種連携と協働 DVD視聴（レポート作成）							P314～P330 通読	
⑬	後期総復習（重要事項の確認）							P154～P330	
⑭	定期試験							後期試験	
⑮	試験答案返し、解説・後期に向けて							解答・解説のレジュメ	
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	毎回介護福祉士模擬問題を4問出題し、解説。
	60%	評価しない	10%	評価しない	評価しない	30%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座13（第2版） 「認知症の理解」中央法規出版					参考図書	介護福祉士国試ナビ		
学生へのメッセージ	豊かな知識と確かな技術、クールヘッドと熱いハート、笑顔を忘れずに利用者の生きる意欲を引き出せるような介護職を目指しましょう					履修上の注意			

実務経験と当該科目との関連

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
こころとからだのしくみ	障害の理解	講義	60 60	前期	後期	前期	後期	船澤修一	-
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。				《本教科で重要となるキーワード》 CF、ノーマリゼーション、インクルージョン、スティグマ、エンパワメント、ストレングス、権利擁護、地域生活、早期療育、就労支援、差別解消法、バリアフリー、自立、受容、ピアサポート、障害種別、障害特性、チームアプローチ、					
《授業の概要》 障害の定義と概念について講義する。障害者支援、福祉の理念、支援制度の発展について講義する。支援・福祉サービスの概要を解説し、雇用対策や権利擁護について、そのあり方や制度について紹介する。外国の障害者支援の実際と福祉制度について紹介する。障害種別、原因、特性の医学的理解、心理的理解を解説し、本人、家族への自立支援の実践に向けた講義及び意見交換を実施する。小テストを実施する。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 介護福祉士として、障害がある人の支援の担い手となるために、心理や身体機能に関する基礎知識を習得し、地域や家族を含めた生活支援を行うための知識とスキルについて学習する。環境の調整や制度の活用により自己実現が可能になる。障害種別による特性に応じた支援について学ぶ。地域生活に向けた社会資源、機関連携、チームアプローチのあり方を学ぶ。									
《到達目標（具体的行動目標）》 障害者の自立支援、自己実現のための障害者福祉制度を習得する。ICFを理解し、意義を説明できる。自立、自己実現、ノーマリゼーション、インクルージョンを説明できる。障害者支援の目標を説明できる。人権や権利擁護のあり方を説明できる。障害種別、原因、特性を理解し活用できる。心理的影響を理解し、本人・家族のサポートができる。障壁の意味を理解できる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	障害の理解							第1章第1節通読	
②	障害者福祉の理念							同第2節	
③	障害及び障害者の定義							同第1節	
④	障害者支援・福祉制度の発展							同第1節第2節	
⑤	障害者の権利擁護							同第3節	
⑥	障害者福祉サービス							同第4節	
⑦	障害者福祉サービス：施設福祉							同第4節	
⑧	障害者福祉サービス：早期療育・統合保育							レジュメ予習	
⑨	障害者福祉サービス：学齢児への支援							レジュメ予習	
⑩	障害者の雇用							同第3節	
⑪	外国の障害者福祉							レジュメ予習	
⑫	家族への支援							第5章第1節第2節	
⑬	障害がある人の心理							第2章第1節	
⑭	肢体不自由 特性理解 原因疾患理解 心理的側面 生活課題 支援のありかた							同第2節	
⑮	視覚障害 特性理解 支援のありかた理解							同第3節	
⑯	聴覚・言語障害 特性理解 支援のありかた理解							同第4節	
⑰	重複障害 原因 種別 支援のありかた理解							同第5節	
⑱	内部障害 種別理解 特性理解 支援のありかた理解							同第6節	
⑲	重症心身障害 特性理解 支援のありかた理解							同第7節	
⑳	知的障害 原因理解 特性理解 支援のありかた理解							第3章第1節	
㉑	精神障害 種別理解 特性理解 支援のありかた理解							同第2節	
㉒	高次脳機能障害 原因理解 特性理解 支援のありかた理解							同第3節	
㉓	発達障害 種別理解 特性理解 支援のありかた理解							同第4節	
㉔	難病 種別理解 特性理解 支援のありかた理解							同第5節	
㉕	他機関連携 多職種連携							第4章第1節第2節	
㉖	事例検討1 特性に応じた支援							レジュメ予習	
㉗	事例検討2 制度の活用							レジュメ予習	
㉘	定期試験対策と全般的質問と応答								
㉙	定期試験								
㉚	定期試験解説								
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策	
	70%	20%	なし	なし	なし	10%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座14（第2版） 「障害の理解」中央法規出版					参考図書	なぜ人と人は支えあうのか ちくまプリマー新書 わたしが障害者じゃなくなる日 旬報社 その他、授業内で随時案内します。		
学生へのメッセージ	障害は個人の課題ではなく環境を変えるとで解決する、支援を共に考えていくことが、その人らしい自立生活の実現になることを学びましょう。					履修上の注意	障害があってもなくても必要なら支援することを意識しましょう。日頃の生活でも、障害のある方への関心を寄せましょう。配布資料は、ファイルしましょう。		

実務経験と当該科目との関連	
---------------	--

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数※	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
医療的ケア	医療的ケアⅠ	講義	30 68	前期 ●	後期	前期	後期	中島裕子	○
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。								《本教科で重要となるキーワード》 医行為 医の倫理 尊厳 説明と同意 安全 事故対策 スタンダードプリコーション 清潔保持 消毒・滅菌 感染予防 急変 実施手順	
《授業の概要》 なぜ、介護福祉士が医療的ケアを実施するようになったのか社会的背景と法改正の流れを理解し、医療チームの一員としての倫理観を持てるよう講義をするとともに自らの言葉でも表現できるように振り返りを行う。医療的ケアを安全に安楽な方法で実施するために必要な知識と技術をまなび、医療的ケアを受ける人の気持ちに寄り添えるよう、適宜、グループディスカッションや実際の器具に触れたり、映像を見るなどして学習を深める。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 医療的ケアを実施する法的根拠や医行為を行うために必要な倫理観を醸成する。 医療的ケアの演習を安全に安楽な方法で実施するために必要な知識と技術の基礎を習得する。医療的ケアを受ける人の不安な気持ちに寄り添い、安心されるケアを提供できるように、根拠をしっかりと学び説明したり、必要時には代弁者となることを理解し、介護福祉士としての医療チーム内での役割が理解できる。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ①介護福祉士が医療的ケアを実施することになった背景を理解し、医療チームの一員としての倫理観を持ち、尊厳に配慮した行動ができる。 ②医療チームの一員として自分の役割を認識し、適切な連携の具体的方法を説明できる。 ③安全で安楽なケア実施のために必要な基礎的な知識、実施手順を身につけ、根拠に基づいたケアの実施についてわかりやすく説明することができる。									
授業回数	授業計画								授業外学習及び準備等
①	授業説明（授業の概要、進め方、評価基準等） 医療行為とは 医療的ケアとは								
②	医療行為で大切なこと 喀痰吸引等の制度								
③	医療的ケアと喀痰吸引の背景 その他の制度（社会福祉士及び介護福祉士法の改正）								
④	安全な療養生活								小テスト
⑤	救急蘇生								
⑥	清潔保持と感染予防								小テスト
⑦	介護福祉職の感染予防								
⑧	療養環境の清潔・消毒法（消毒と滅菌）								
⑨	滅菌物の取り扱い								
⑩	健康状態の把握 身体・精神の健康								小テスト
⑪	健康状態を知る項目（バイタルサインなど）								
⑫	健康状態把握の演習（バイタルサインの測定など）								
⑬	測定した値の読み取り 急変状態について								小テスト
⑭	定期試験								
⑮	定期試験の振り返り 夏休みの課題								
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 小テスト、練習問題を実施します。 国家試験受験ワークブックも復習に活用しましょう。	
	70%	10%	なし	なし	10%	10%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座15（第2版） 「医療的ケア」中央法規出版					参考図書	介護福祉士国家試験受験ワークブック上 随時授業内で参考図書の紹介をします。		
学生へのメッセージ	人の生きる力を支えるために必要な科目です。今後増々必要となってきます。 安全なケアを提供するために必要な根拠となる知識を学び、演習が行えるようにしましょう。					履修上の注意	ここからだのしくみ、生活支援技術、介護の基本Ⅱ、介護の基本Ⅲとの関連が深い科目です。関連付けて学習しましょう。人の命に関わる科目です。真剣に学びましょう。 配布された資料はファイルなどにまとめましょう。		
実務経験と当該科目との関連	看護師としての病院・看護専門学校での実務経験を生かし、チームの中の介護福祉士としての医療的ケアを実施すること、また根拠に基づいたケアの実施について説明できる授業を行う。								

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数※	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
医療的ケア	医療的ケアⅠ	講義	38 68	前期	後期	前期	後期	中島裕子 宮崎弘美	○
《授業のねらい》厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。				《本教科で重要となるキーワード》 医行為 医の倫理 尊厳 説明と同意 安全 事故対策 スタンダードプリコーション 清潔保持 消毒・滅菌 感染予防 急変 実施手順					
《授業の概要》 なぜ、介護福祉士が医療的ケアを実施するようになったのか社会的背景と法改正の流れを理解し、医療チームの一員としての倫理観を持てるよう講義をすることで自らの言葉でも表現できるように振り返りを行う。医療的ケアを安全に安楽な方法で実施するために必要な知識と技術をまなび、医療的ケアを受ける人の気持ちに寄り添えるよう、適宜、グループディスカッションや実際の器具に触れたり、映像を見るなどして学習を深める。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 医療的ケアを実施する法的根拠や医行為を行うために必要な倫理観を醸成する。 医療的ケアの演習を安全に安楽な方法で実施するために必要な知識と技術を習得する。医療的ケアを受ける人の不安な気持ちに寄り添い、安心されるケアを提供できるように、根拠をしっかりと学び説明したり、必要時には代弁者となることを理解し、介護福祉士としての医療チーム内での役割が理解できる。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ①介護福祉士が医療的ケアを実施することになった背景を理解し、医療チームの一員としての倫理観を持ち、尊厳に配慮した行動ができる。 ②医療チームの一員として自分の役割を認識し、適切な連携の具体的な方法を説明できる。 ③安全で安楽なケア実施のために必要な基礎的な知識、実施手順を身につけ、根拠に基づいたケアの実施についてわかりやすく説明することができる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 呼吸のしくみとはたらき 喀痰吸引とは								
②	人工呼吸器と吸引								
③	吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応・説明と同意 子どもの吸引について								
④	呼吸系の感染と予防（吸引と関連して）喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認							小テスト	
⑤	喀痰吸引実施手順解説 喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ								
⑥	喀痰吸引の技術と留意点 喀痰吸引に伴うケア 報告及び記録								
⑦	高齢者および障害児・者の経管栄養概論 消化器系のしくみとはたらき 経管栄養とは								
⑧	経管栄養実施上の留意点 子どもの経管栄養 経管栄養に関する感染と予防							小テスト	
⑨	経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 経管栄養によって生じる危険、事後の安全確認								
⑩	経管栄養実施手順解説 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持								
⑪	経管栄養の技術と留意点 経管栄養に必要なケア								
⑫	救急蘇生演習							小テスト	
⑬	救急蘇生演習 試験対策								
⑭	定期試験								
⑮	試験解説・振り返り 集中講義について								
⑯	医療的ケアⅡ 演習オリエンテーション 手順の確認							グループ別 演習の身だしなみ	
⑰	医療的ケアⅡ 演習 手順の確認							グループ別 演習の身だしなみ	
⑱									
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度	その他	国家試験の対策 小テスト、練習問題を実施します。 国家試験受験ワークブックも復習に活用しましょう。	
	70%	10%	なし	なし	10%	10%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座15（第2版） 「医療的ケア」中央法規出版					参考図書	介護福祉士国家試験受験ワークブック上 随時授業内で参考図書の紹介をします。		
学生へのメッセージ	人の生きる力を支えるために必要な科目です。今後増々必要となってきました。 安全なケアを提供するために必要な根拠となる知識を学び、演習が行えるようにしましょう。					履修上の注意	こころとからだのしくみ、生活支援技術、介護の基本Ⅱ、介護の基本Ⅲとの関連が深い科目です。関連付けて学習しましょう。人の命に関わる科目です。真剣に学びましょう。 配布された資料はファイルなどにまとめましょう。		
実務経験と当該科目との関連									

令和4年度 介護福祉科 教科目概要

領域	授業科目	区分	時間数	開講時期				授業担当者	実務経験
				1年		2年			
医療的ケア	医療的ケアⅡ	演習	60 60	前期	後期	前期	後期	中島裕子 宮崎弘美	-
《授業のねらい》 厚生労働省介護福祉士養成課程カリキュラムより 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。				《本教科で重要となるキーワード》 「安全」「安楽」「根拠」 「プライバシー」「尊厳」 「自己決定」「説明・同意」 「報告」「実施手順」					
《授業の概要》 1年次に学んだ内容をもとに演習を実施し、評価票に基づいて評価を行う。									
《科目目標（総括目標・総括目標設定の理由）》 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な根拠を理解し、正しい手順で行うことができる。 知識、技術のみではなく、利用者の状況に寄り添い、不安を軽減できるようにわかりやすい言葉での説明・同意を得られるような声掛けができる。 利用者のプライバシー・尊厳・自己決定を尊重した態度がとれる。									
《到達目標（具体的行動目標）》 ①医療的ケアを安全・的確に実施するための技術の実践できる。 ②1つ1つの行為、手順の根拠を述べるができる。 ③利用者のプライバシーに配慮した行動ができる。 ④利用者の尊厳や人権に配慮した行動ができる。									
授業回数	授業計画							授業外学習及び準備等	
①②	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
③④	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
⑤⑥	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
⑦⑧	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
⑨⑩	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
⑪⑫	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
⑬⑭	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
⑮⑯	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
⑰⑱	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
⑲⑳	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
㉑㉒	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
㉓㉔	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
㉕㉖	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
㉗㉘	A①経管栄養演習/②喀痰吸引演習 B①喀痰吸引演習/②経管栄養演習								
㉙㉚	全体振り返り								
評価内容・方法	試験	小テスト	レポート	発表	作品・課題	授業態度・参加度・出席	その他	国家試験の対策	実施手順の根拠を意識しながら行うことが国家試験対策にもなります。
	80%	なし	なし	なし	なし	20%	なし		
使用教科書	最新 介護福祉士養成講座15 「医療的ケア」中央法規出版					参考図書	介護福祉士国家試験受験ワークブック上 随時授業内で参考図書の紹介をします。		
学生へのメッセージ	人の生きる力を支えるために必要な科目です。今後増々必要となってきます。 安全なケアを提供するために必要な根拠となる知識を学び、演習が行えるようにしましょう。					履修上の注意	演習に必要なものを持参しなかった場合は、授業に出席はできますが、演習の評価は実施できません。 演習の進捗により授業変更する場合があります。		
実務経験と当該科目との関連									